

がん相談業務 (院内におけるピアサポート)

相談記録シート集計報告

実施期間：平成30年1月1日～平成30年3月31日

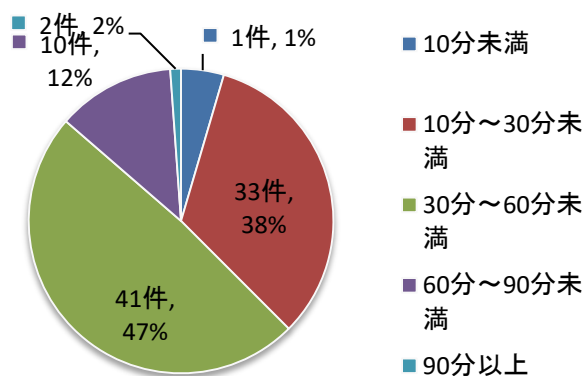
がん相談業務（院内におけるピアサポート）集計結果

■ 調査対象期間 平成30年1月1日～平成30年3月31日

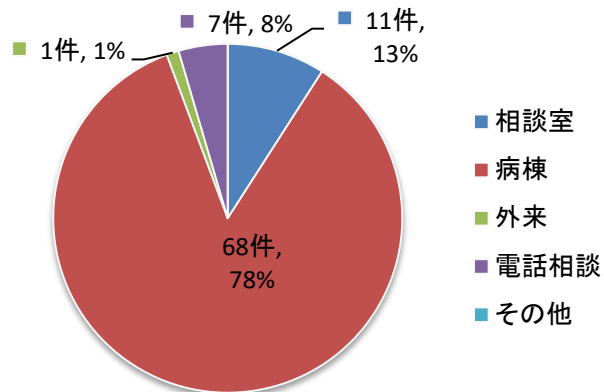
■ 調査件数 88 件

相談月	件数
10月	36
11月	22
12月	30
合計	88

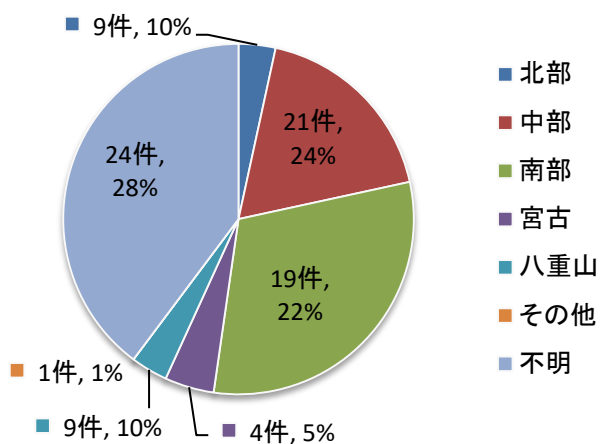
相談時間



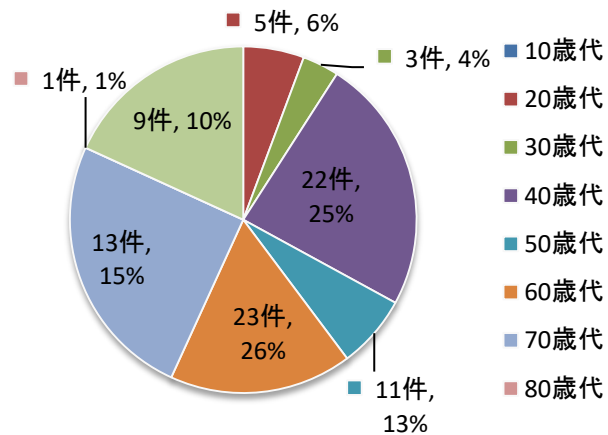
相談形式



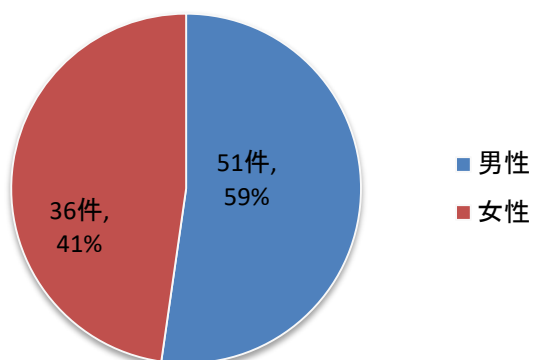
住居エリア



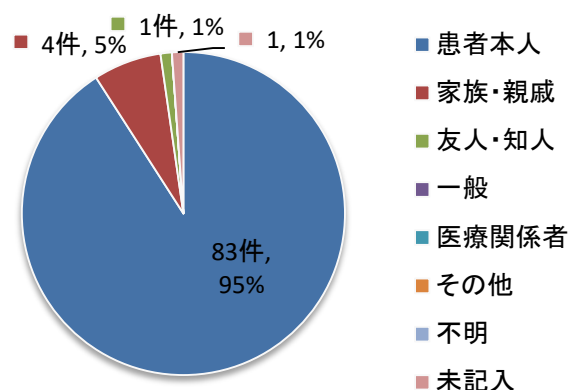
相談者の年代



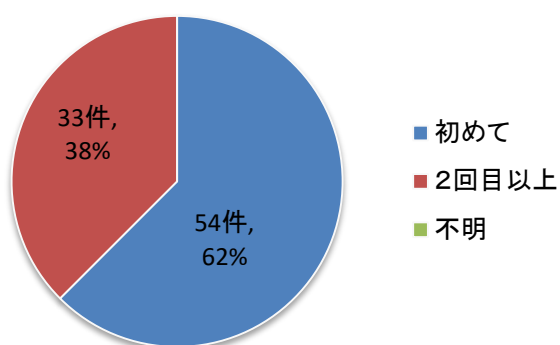
相談者の性別



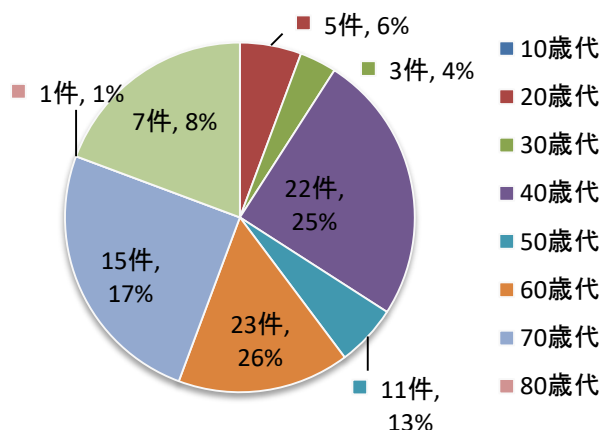
相談者のカテゴリー



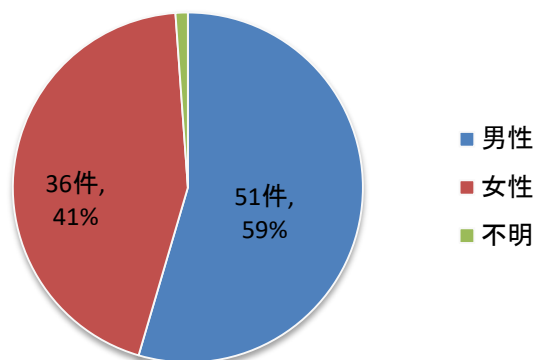
相談者の利用回数



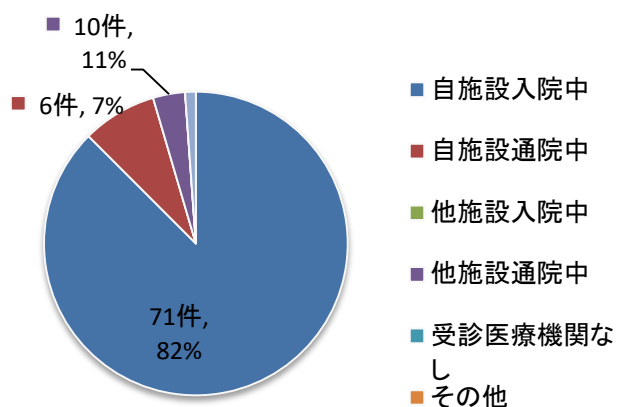
患者本人の年代



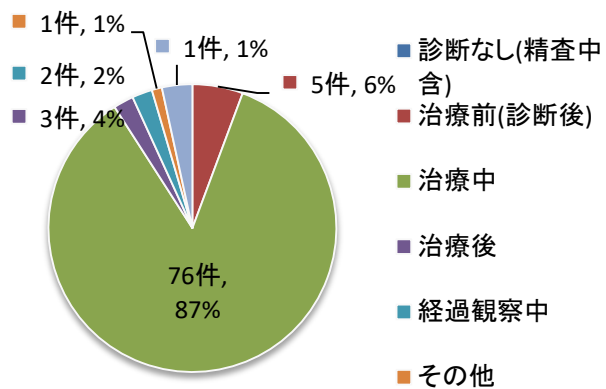
患者本人の性別



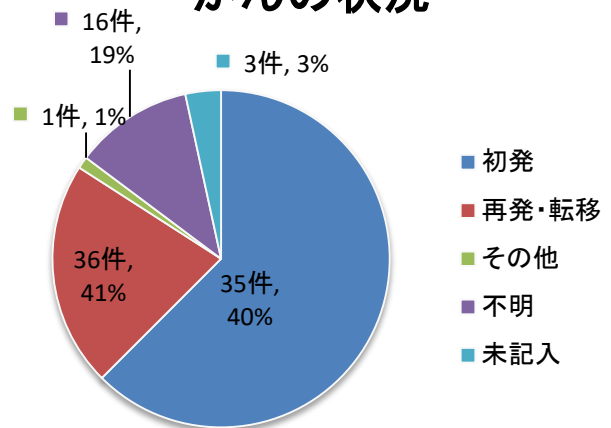
受診状況



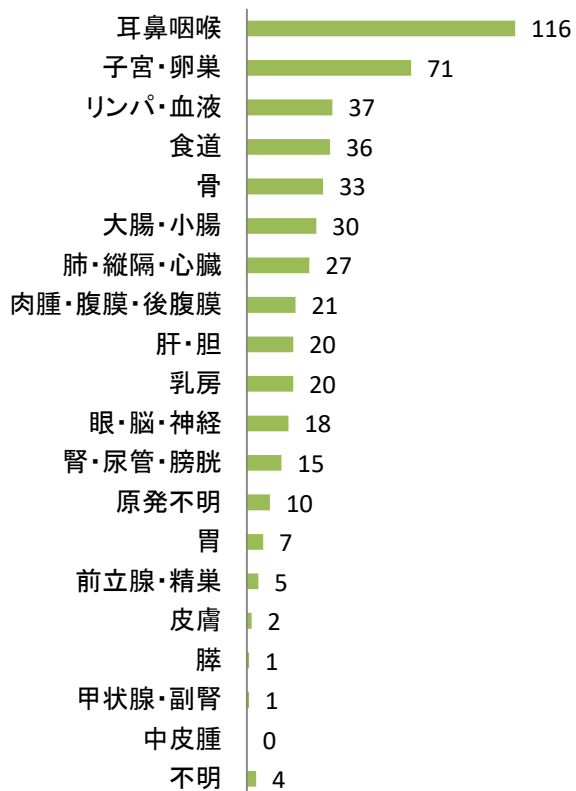
現在の治療状況



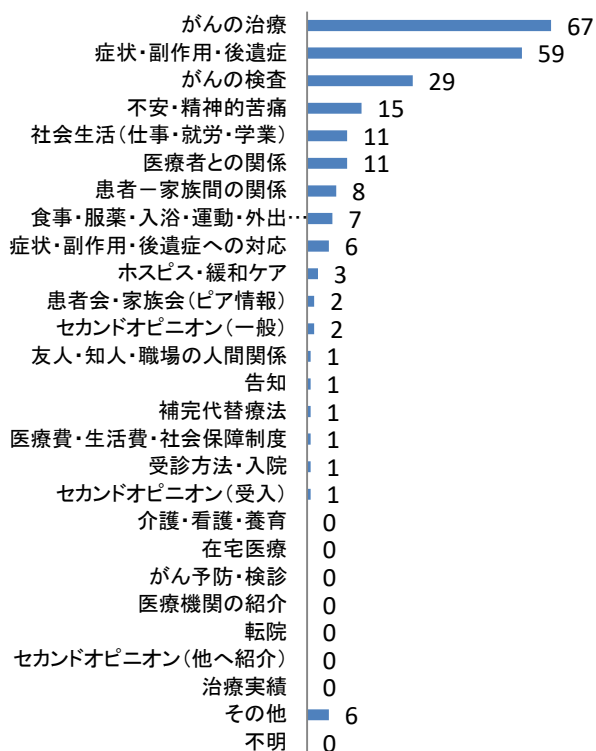
がんの状況



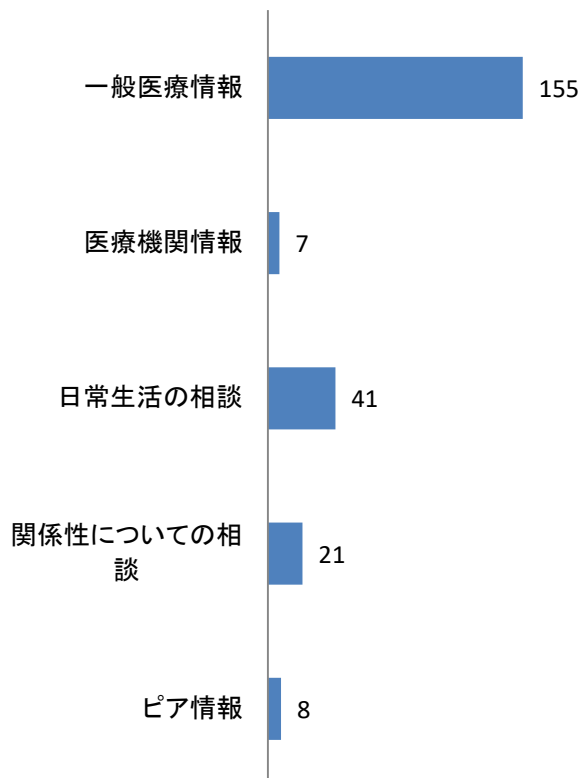
がんの部位



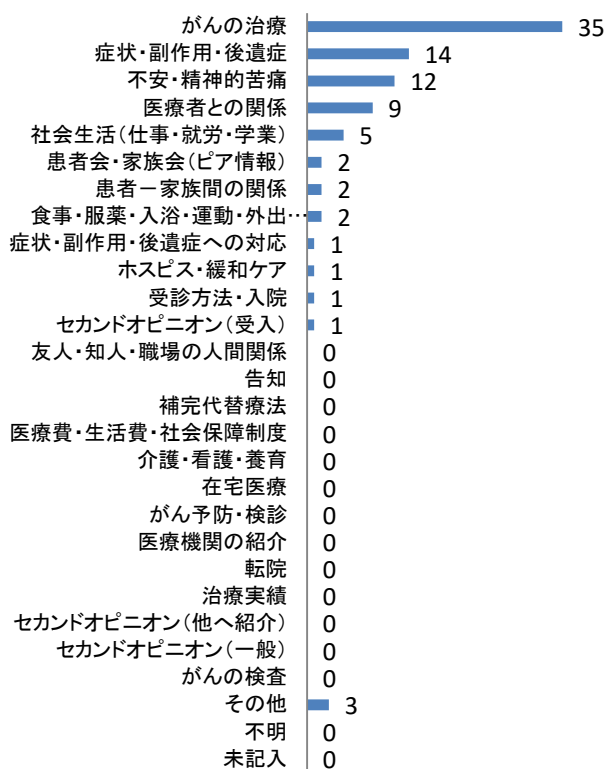
相談内容 (実施したものすべて)



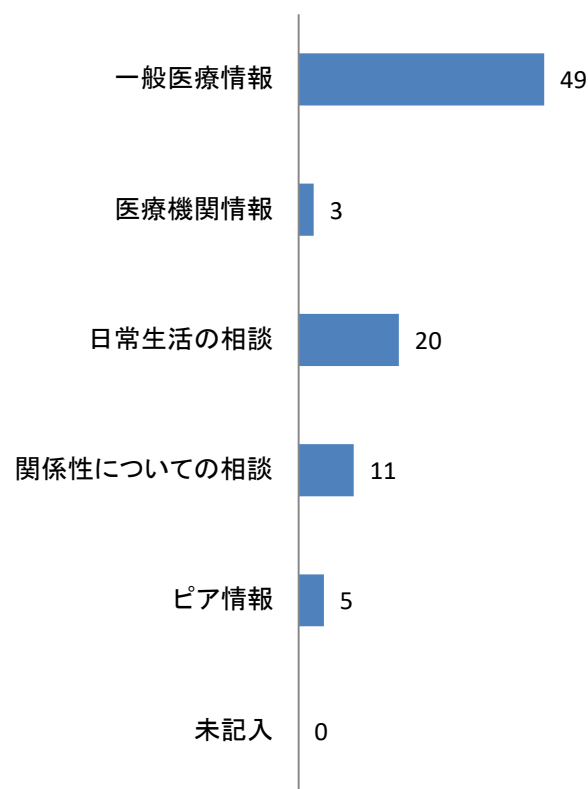
相談内容 (実施したものすべて・大項目別)



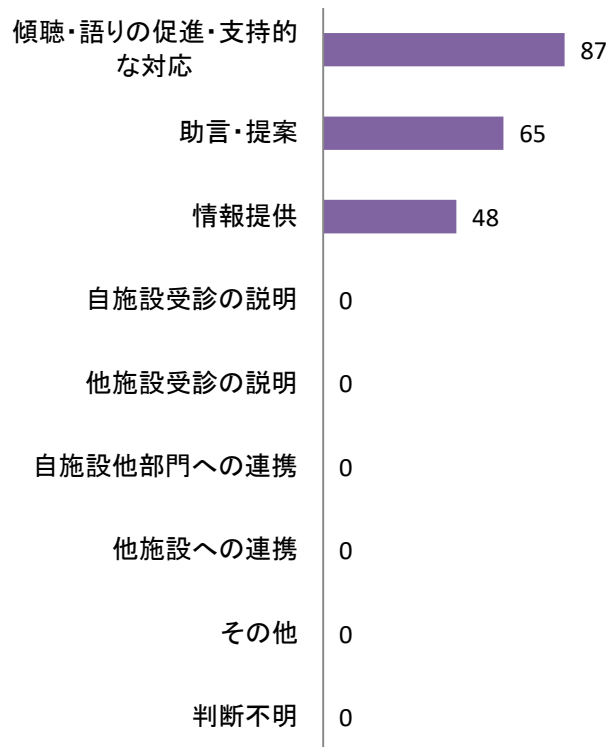
相談内容 (最も比重の高いもの)



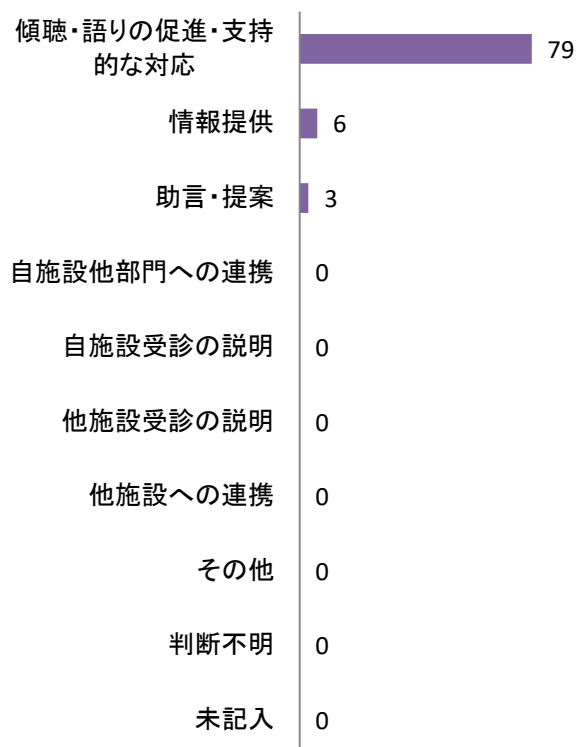
相談内容 (最も比重の高いもの・大項目別)



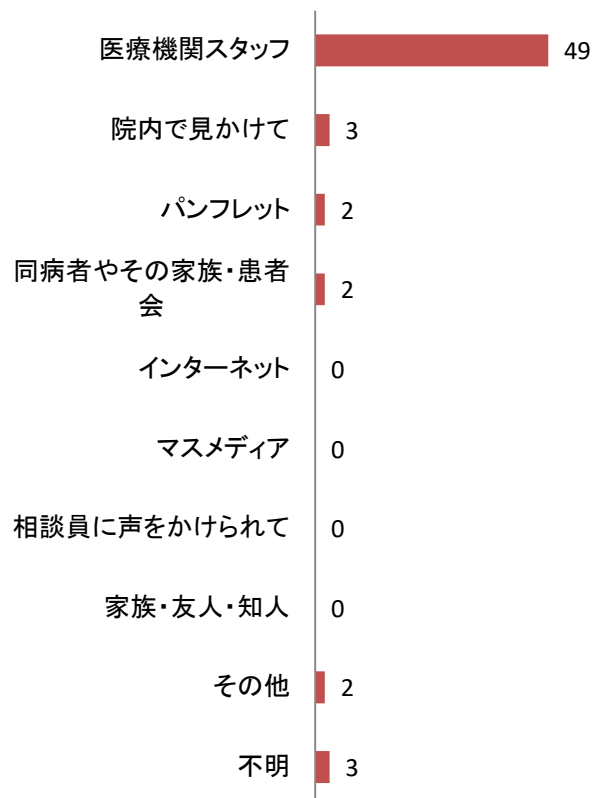
対応内容 (実施したものすべて)



対応内容 (最も比重の高いもの)



認知経路



がん相談できる島づくり　がんピアキャラバン
開催報告

実施日：平成 30 年 2 月 4 日（日）

主催　沖縄県地域統括相談支援センター

【がんピアキャラバンとは】

離島やへき地を含む沖縄全域に出向き、地域のがん関係者等との協働によりがん患者支援を行うものである。主たる内容はがんピアサポーターや医療者によるがん相談とし、支援体制の普及啓発活動も同時に行う複合イベントである。

【イベントの名称】

がん相談できる島づくり　がんピアキャラバン

【目的】

1. がん患者や家族の不安軽減

専門家による相談会や、当事者同士ががんに対する不安や悩み・気持ちを分かち合い、必要とする情報を交換し合うことで病気に対する不安軽減につなげる。

2. がんピアサポートの周知

他者へのがん相談の機会が少ない地域へ、センターの相談員によるピアサポートを提供することでピアサポートを知る機会を与え、地元のピアサポーターの活用につなげる。

【概要】

1. 日時　平成30年2月4日（日）

2. 場所　沖縄県宮古島市　働く女性の家（ゆいみなあ）

3. 対象　地域住民の皆様

4. 主催　沖縄県地域統括相談支援センター（平成29年度　沖縄県委託事業）

5. 協力　琉球大学医学部附属病院がんセンター、資生堂ライフクオリティビューティーセンター、まんま宮古、公益社団法人日本オストミー協会宮古支部、ゆうかぎの会、沖縄県立宮古病院地域連携室

6. 参加費　参加無料・相談無料

7. プログラム

＜講演＞13:00～14:40　＊事前申込なし

講演会テーマ：がん患者さんのアピアランスケアを考える

～外見ケアが必要になったら体験者に聞いてみよう～

講演①　がん患者さんのアピアランスケアとは（15分）／

沖縄県地域統括相談支援センター長

琉球大学医学部附属病院がんセンター長　増田昌人

座談会　外見の変化、わたしの場合。（30分）／

座長　　沖縄県地域統括相談支援センター相談員　仲田ひろ子

登壇者 まんま宮古 様

まんま宮古 様

- ・がん治療によって外見の変化が生じた体験談。

講演② 外見ケアセミナー（30分）／資生堂ジャパン株式会社 板谷さち様

- ・実演なし
- ・講演会終了後、パネル展付近にて希望者に実演会を予定（16時まで）。

案内① 患者会（15分 1団体5分）／

まんま宮古 様

ゆうかぎの会 様

公益社団法人 日本オストミー協会宮古支部 様

- ・会の目的や趣旨、活動日程の案内など。

案内② がん診療病院 地域連携室（5分）／沖縄県立宮古病院 地域連携室様

- ・相談室やサロンの案内、アピアランスケア対応の有無など。

<相談会>14:50～16:40 *予約制

全3回（各30分）開始時間 14:50、15:30、16:10

相談会① 医師による相談／沖縄県地域統括相談支援センター長

琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田昌人

相談会② がんピアサポート相談／沖縄県地域統括相談支援センター相談員

仲田ひろ子

中山富美

<パネル展>13:00～16:00

展示物 がんピアサポート展

【タイムスケジュール】

開始	終了	時間	内容	担当者
09:00	09:05	5分	会場集合 施設借用受付、荷物受取り	キャラバンスタッフ 受付・受取：安里
09:05	09:20	15分	スタッフ最終打合せ	キャラバンスタッフ
09:20	11:00	100分	会場設営	キャラバンスタッフ

開始	終了	時間	内容	担当者
11 : 00	12 : 00	60 分	板谷様ご到着予定 ・実演会スペースの設営	資生堂ジャパン（株）板谷様 キャラバンスタッフ
12 : 00	12 : 30	30 分	昼食	キャラバンスタッフ
12 : 30	13 : 00	30 分	開場 ピアサポート展スタート	受付：又吉さん、中山さん
12 : 30	12 : 40	10 分	座談会最終打合せ	まんま宮古 様、 様 仲田さん、安里
12 : 40	12 : 55	15 分	板谷様との最終打合せ	資生堂ジャパン（株）板谷様 安里
13 : 00	13 : 01	1 分	開演	進行：安里
13 : 01	13 : 04	3 分	主催者あいさつ	増田センター長
13 : 04	13 : 05	1 分	キャラバンの内容案内	安里
13 : 05	13 : 20	15 分	講演① 「がん患者さんのアピアラン スケアとは」	講師：増田センター長
13 : 20	13 : 50	30 分	座談会 「外見の変化、わたしの場合。」	座長：仲田さん 登壇者：まんま宮古 様、 様
13 : 50	14 : 20	30 分	講演② 「外見ケアセミナー」	講師：資生堂ジャパン（株） 板谷様
14 : 20	14 : 35	15 分	案内① 患者会	●まんま宮古 様 ●ゆうかぎの会 様 ●公益社団法人日本オストミ ー協会宮古支部 様
14 : 35	14 : 40	5 分	案内② がん診療病院 地域連携室	沖縄県立宮古病院 朝川様
14 : 40	14 : 41	1 分	講演会終了のアナウンス 相談会、外見ケア実演会の案内	安里
14 : 41	14 : 50	9 分	相談会等準備	キャラバンスタッフ
14 : 50	15 : 20	30 分	相談 1 回目	①：増田センター長 ②：中山さん、仲田さん 予約係：又吉さん
14 : 50	15 : 30	40 分	外見ケア実演会	資生堂ジャパン（株）板谷様

15 : 30	16 : 10	40 分	軽運動室片付け	又吉さん、仲田さん、 中山さん、安里
16 : 10	16 : 30	20 分	会議室、1・2階講習室片付け	キャラバンスタッフ
16 : 30	16 : 35	5 分	退館	

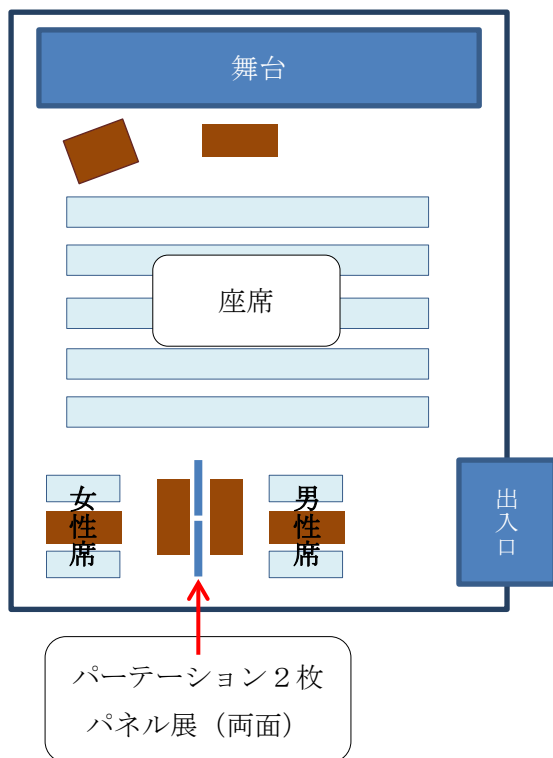
【講師等及びスタッフ】

名前	所属	担当
〇〇〇〇様	まんま宮古	座談会
〇〇〇〇様	まんま宮古	座談会
板谷さち様	資生堂ジャパン株式会社 コスメティクスブランド事業本部 九州・ 沖縄事業部 九州・沖縄 第9	講演②／実演会
〇〇〇〇様	まんま宮古	案内①（患者会）
〇〇〇〇様	ゆうかぎの会	案内①（患者会）
〇〇〇〇様	公益社団法人日本オストミー協会宮古支部	案内①（患者会）
朝川恵利様	沖縄県立宮古病院 地域連携室	案内②（相談室・サロン等）
増田昌人	沖縄県地域統括相談支援センター長 琉球大学医学部附属病院がんセンター長	主催者 講演①／相談会①
仲田ひろ子	沖縄県地域統括相談支援センター	座談会／相談会②
中山富美	沖縄県地域統括相談支援センター	受付／相談会②
又吉未央	琉球大学医学部附属病院がんセンター	受付／記録／予約／会場
安里君代	沖縄県地域統括相談支援センター	担当者 司会／会場／その他全般

【会場イメージ】

会場：宮古島市働く女性の家 ゆいみなあ

●講演会・パネル展・休憩所・実演会：軽運動室



<講演>

舞台側前方にて行う。

座席予定数：50席～60席

<パネル展>

座席後方パーテーションにて行う。

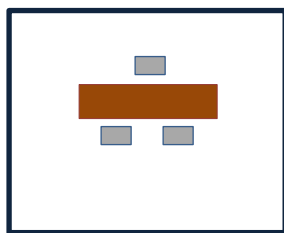
両面使用予定。

<実演会>

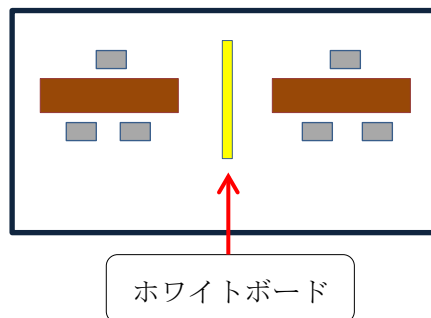
講演会終了後、資生堂板谷様による実演会を行う（希望者のみ）。

男女分けて6席ずつ配置予定。

●相談会①（医師）：会議室



●相談会②（ピア）：講習室



<相談会>

①：医師による相談

②：がんピアサポート相談（2席）

各相談エリアにテーブル1台、イス3～4脚を配置する。

【参加人数】

講演会：14名（内登壇者6名）

相談会：医師による相談1件、ピアサポート相談0件

【振り返り】

・広報は地元ピアサポーターが新聞社に掲載依頼をしており、前日イベント欄に掲載されていた。またNHKの情報番組より、イベント案内したいとの申し入れがあり、2日前の夕方に告知されている。

・前日に会場の下見を行ったことで、当日の設営がスムーズに行えた。

・講演会はアピランスについて学び、体験者によって何に困るのかを知り、実際のケア方法を学ぶ構成であり、参加者からは好評を得ている。また、内容が良いので人がきていないことがもったいないとの声もあった。

・相談会への参加は1件となっている。患者会関係者が多かったため、相談したいことは特になかったと思われる。

・資生堂による実演会は参加者も多かった。実際に手に取って試せることや、講演で学んだことをすぐに実践できる点、また講師の板谷氏が個別指導を行ってくれたりと好評であった。

・パネル展はパーテーションが想定外の規格ではあったものの、選別して掲示するなどの対応で問題なく行えた。資料は見る人の多く、持ち帰る人もいた。また残ったセンターの案内等は会場が公共施設であったため、掲示していただいた。

【反省点】

・マスコミ等の告知があったにもかかわらず参加者が伸びなかった。要因としては、寒波の影響で悪天候であったこと、さとうきび刈の時期でイベント自体の集客が難しいこと、アピランスケアということで対象が限定される印象を与えたことなどが挙げられる。

・相談会が主であるがイベントの割合が大きかったため、相談者がいなかったと考えられる。

【今後の課題】

・開催時期に配慮すべき。地元ピアサポーターの情報によると、1月後半から2月はさとうきび刈で忙しく、よっぽどのことでなければイベントへ参加しないとのこと。

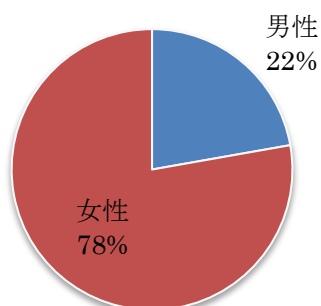
・離島ではアピランスケアに関する講演等があまり開催されていないとのことから企画したが、人口も加味して「自分も対象だ」と思える人が多くなるような内容になるよう検

討が必要である。

- ・会場の駐車場は数台しかなかったため、駐車場が確保できる会場の検討も必要である。
- ・相談者が来やすいように、相談会のみ役所等で平日に開催することも検討したい。

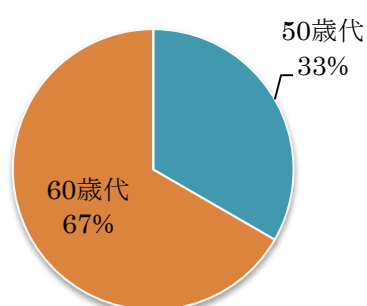
【アンケート集計結果】

Q1. 性別



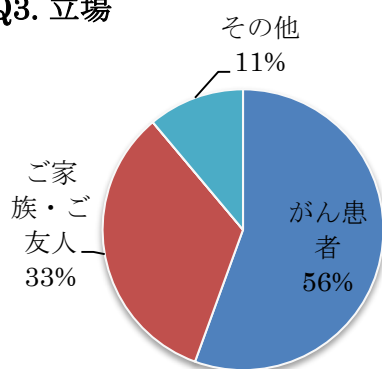
SA n=9

Q2. 年齢



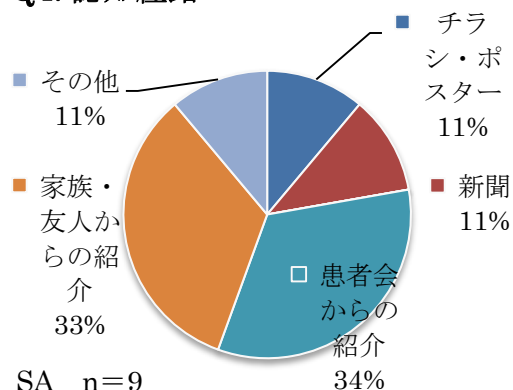
SA n=9

Q3. 立場



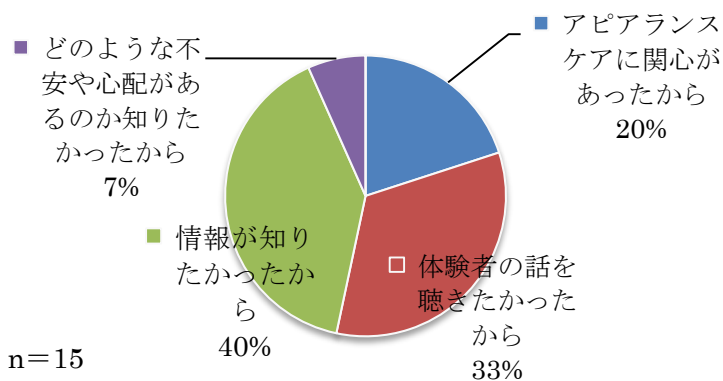
SA n=9

Q4. 認知経路



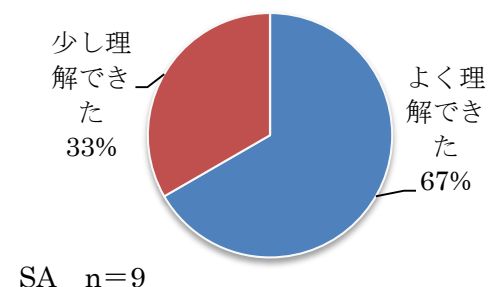
SA n=9

Q5. 参加しようと思ったきっかけ

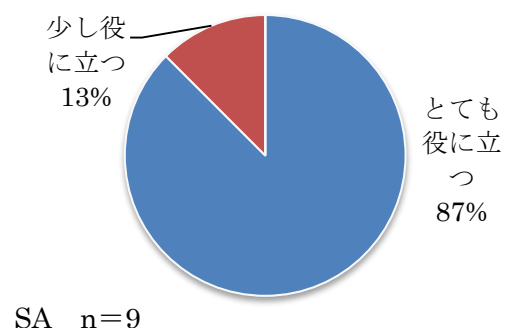


MA n=15

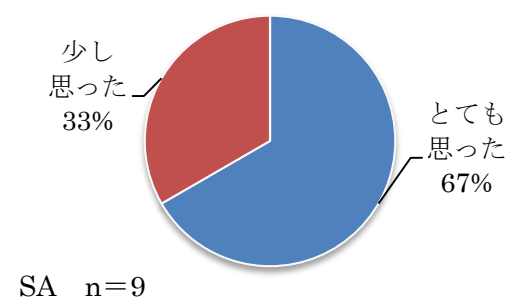
Q6. アピアランスケアについて理解できたか



Q7. 体験者の話は役に立つか



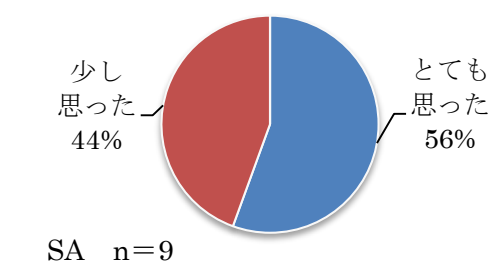
Q8. 講演会で聞いたケア方法を実際に試したいと思うか



Q8 の理由

- ・ 普段でもできるのでやってみたいです。
- ・ 知らなかった事がわかったから！！

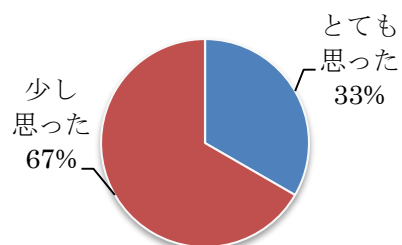
Q9. 患者会の案内を聞いて他のがん患者と話してみたいと思ったか



Q9 の理由

- ・ 自分だけじゃないという思いです。
- ・ 交流の場がほしいので。
- ・ 同じがんでも心がまえ、心持ちが聞く事で勉強になる。

Q10. 宮古病院の案内を聞いて、利用してみたいと思ったか

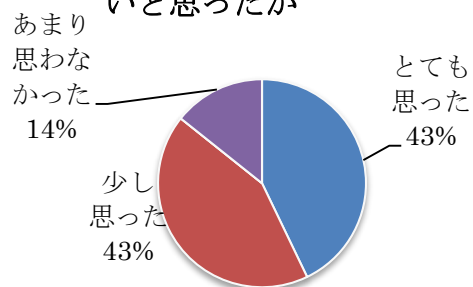


SA n=9

Q10 の理由

- ・サロンへの参加をしてみたい。
- ・がんになった人の応援方法を聞きたい。

Q11. 地域統括相談支援センターの相談員と話したいと思ったか



SA n=7

Q12. 講演会についてのご意見・ご感想

- ・いい勉強になりました。ありがとうございました。
- ・とても良い講演会でした。ありがとうございました。
- ・良い会だが、参加者が少ないのが残念！！
- ・メーキャップでいきいきしていきたい！もっと美人？になりたい！外見って大事なものね。サンエーに行こう！！（資生堂の外見ケア指導は宮古島市ではサンエーのみとのこと）

【当日の様子】



▲講演①「アピアランスケアとは」





▲座談会「外見の変化、わたしの場合。」



▲講演②「外見ケアセミナー」



▲案内①「患者会」



▲案内②「がん相談支援センター
(県立宮古病院地域連携室)」



▲外見ケア実演会



▲がんピアサポート展



【広報】

- ・案内チラシ（両面） 宮古島市内のがん診療病院、患者会、公共施設等へ配布

平成29年度 沖縄県委託事業

がん相談できる島づくり

がんピアキャラバン

CARAVAN

参加無料

平成30年
2月4日(日)

働く女性の家
(ゆいみなあ)

講演会
軽運動室
13:00~14:40

テーマ
がん患者さんの
アピアランスケアを考える
～外見ケアが必要になったら
体験者に聞いてみよう～

パネル展
軽運動室
13:00~16:00

センターの活動内容などを
分かりやすく解説します。
お持ち帰りいただける冊子
もあります。

相談会
会議室・講習室
14:50~16:40

- 医師による相談
- ピアサポート相談

ピアサポートとは、同じ体験を
した仲間が行う活動のことです。
*予約が必要です。

主催
協力
沖縄県地域統括相談支援センター
琉球大学医学部附属病院がんセンター
貴生堂ライフケアビューティーセンター
まんま宮古、(公社)日本オーストミー協会宮古支部、
ゆづかぎの会、沖縄県立宮古病院地域連携室

くわしくは
うらをごらんください。

がん相談できる島づくり

がんピアキャラバン

2月4日(日)
働く女性の家
(ゆいみなあ)

講演会 13:00 ~ 14:40 (軽運動室)

がん患者さんの
アピアランスケアを考える
～外見ケアが必要になったら体験者に聞いてみよう～

13:05 講演①「がん患者さんのアピアランスケアとは」
琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人

13:20 座談会「外見の変化、わたしの場合。」
座長：沖縄県地域統括相談支援センター相談員 仲田 ひろ子
登壇者：がん体験者 2名

13:50 講演②「外見ケアセミナー」
貴生堂ジャパン株式会社 板谷 さち 氏
コスメティクスブランド事業本部 九州・沖縄事業部 コスメティクス担任

14:20 ご案内

相談会 14:50 ~ 16:40 (会議室・講習室)

①医師による相談(会議室) 1室
②がんピアサポート相談(1階講習室) 2室

相談は30分です。各3回9組様をお受けいたします。

第1回 14:50~15:20
第2回 15:30~16:00
第3回 16:10~16:40

事前予約受け付けます
☎ 098-942-3407

お問合せ
沖縄県地域統括相談支援センター
(琉球大学医学部附属院内)
☎ 098-942-3407
<http://www.gansoudan-okinawa.jp>

本島から
宮古島市にまいります。

- ・平成30年2月2日18:10放送 NHK 沖縄放送局「おきなわ HOTeye」イベント告知

6:49

週末
イベント情報

がんピアキャラバン

あさって(日)
働く女性の家(宮古島市平良)

開催日
場所
問い合わせ

沖縄県地域統括相談支援センター ☎ (098)942-3407

午後6時49分

[illegible][illegible]

・無料広告掲載サイト「ごーやーどっとねっと」


[ニュース](#)
[イベント](#)
[お得・セール](#)
[コミュニティ](#)
[遊び](#)
[スポーツ](#)
[生活](#)[ログイン・会員登録](#)

沖縄イベント情報 - 月間25万人が利用。おすすめをセレクトしてお届け！

[トップ](#)
[今日のイベント](#)
[今週末のおすすめ](#)
[今月のおすすめ](#)
[来月のおすすめ](#)
[ランキング](#)

[ごーやーどっとねっと](#)
[沖縄イベント情報](#)
[セミナー・教室](#)
[がん相談できる島づくり](#)
[がんピアキャラバン](#)

がん相談できる島づくり がんピアキャラバン

【参加無料・相談無料】がんに関する講演会・相談会・パネル展を同時に開催いたします。



開催日時 2018年02月04日（日）

終了日時 2018年02月04日（日）

開催地 宮古島市癒く女性の家 ゆいみなあ

住所 日本、〒906-0000 沖縄県宮古島市平良下里4-4-2 宮古島市癒く女性の家

問合せ <http://www.gansoudan-okinawa.jp>

※お問い合わせの際は、ごーやーどっとねっとを見たと伝えてね！

健康的でおいしい宅配弁当をまとめて無料で資料請求



カレンダーで探す

2018年 1月						
月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

※画像をクリックすると拡大します

無料広告掲載サイト「ぴらつか暦」

笠柄暦 ぴらつかこよみ

[ALL](#)
[イベント](#)
[音楽・イベント](#)
[音楽](#)
[出版・書籍](#)
[演劇・舞台](#)
[映画](#)
[アート・展覧](#)
[スポーツ](#)
[演説・演説](#)
[テレビ・ラジオ](#)

| イベント詳細 [HOME](#)



がん相談できる島づくり がんピアキャラバン

web site

教養

日程
2018.02.04（日）

会場
宮古島市癒く女性の家ゆいみなあ
沖縄県宮古島市平良下里4-4-2
車道 宮古島市癒く女性の家



時間
開場：12:30 開演：13:00

料金
参加費 無料

問合せ
沖縄県地域連絡支援センター
TEL 098-942-3407

内容

- ・13:00～14:40 講演会「がん患者さんのピアランスクアを考える」※事前申込不要
- ・14:50～16:40 相談会（医師による相談/ピアサポート相談）※要予約
- ・13:00～16:00 パネル展

沖縄県内各拠点病院院内患者サロン参加報告書 1

沖縄県地域統括相談支援センター

●参加目的

沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを各拠点病院の院内患者サロンへ派遣して活動の場の創出を図る。

●イベント概要

- (1) 名 称 那覇がん患者ゆんたく会 がんピアサロン
- (2) 日 時 平成 29 年 8 月 16 日 (水) 14 : 00 ~ 15 : 30
- (3) 場 所 那覇市立病院 1 階ロビー
- (4) 派遣者 がんピアサポーター 5 名
- (5) 引率者 地域統括相談支援センター相談員 1 名、事務員 1 名
- (6) 内 容 患者サロン 100 回記念ミニコンサート、交流サロン
- (7) 主 催 那覇市立病院がん相談支援センター

●当日スケジュール

開始	終了	時間	内容
13 : 45	14 : 00	15 分	事前打合せ
14 : 00	14 : 30	30 分	患者サロン 100 回記念ミニコンサート がんピアサポーター 大城松健
14 : 30	14 : 35	5 分	がんピアサロン開始、サロンの説明
14 : 35	14 : 50	15 分	アイスブレイク (自己紹介等)
14 : 50	15 : 20	30 分	フリートーク
15 : 20	15 : 30	10 分	閉会のあいさつ、アンケート記入
15 : 30	15 : 50	20 分	反省会 (自己チェックシートの記入、振り返り)

*『那覇市立病院ピアサロン手引き (2017 年度)』よりピアサポーターに関連する部分のみ抜粋

●事前打合せ

最初に自己紹介が行われ、続いて那覇市立病院がん相談支援センターの島袋氏によってサロンの目的や本日の流れ等の説明があった。ピアサポーターとしての心得についての読み合わせが全員で行われた。



●患者サロン 100 回記念ミニコンサート

患者サロン 100 回目の記念として、がんピアサポーターの大城松健によるクラシックギターの演奏が行われた。ロビーということもあり待合中の方や、通りすがりに足を止める方もいた。おおよそ 40 名程度が聴き入っていた。



●がんピアサロン

初めに参加者とともに全体で「サロンでの約束事」の読み合わせが行われた。その後、各グループに分かれての自己紹介、フリートークへと進行していった。サロン参加者は6人であり、2グループ（A・B）に分かれての対応であった。



▲「サロンでの約束事」読み合わせの様子



▲サロン外観

●反省会（振り返り）

ピアサポーターは対応した人ごとに自己チェックシートの記入を行い、それぞれ参加しての感想や対応を振り返り、今後の対応に活かせるよう情報共有を行った。



ピアサポーター：落ち込みが激しい参加者にどのように声掛けをしていいか悩んだ。話を切り出すのが大変な感じがあった。ピアサポーターのことを病院のスタッフと思っていたようなので自分の体験を少しお話したが、がん種が違うので自分の経験と合わないと感じたため、同じがん種のサポーターと対応を代わってもらった。帰る時には「ありがとうございました」と明るくなって帰っていった。

ピアサポーター：「ゆんたく会とかは女性ばかりの集まりだから、ちょっとしたことが大きく広まるので行かない。」と話した参加者がおり、自分の殻に閉じこもっていて話を引き出すのに大変だった。でも話しているうちに少しずつ話してくれるようになった。皆さんがそれぞれ自己紹介で「私はこうでした」と話したことで、自分のことも不安もありながらだと思うが話してくれて打ち解けてきた感じがした。病気を持っている人に話すということで、まだ話し易かったのかなという印象を受けた。困っていることとかを話して、最後は皆さん結構話が弾んでいた。

ピアサポーター：初めてご家族の方の対応をしたが、家族という立場でのサポートがよく分からなくて、あまり案内できなかった。いろいろ不安とかあるんですねと共感し、ご家族がサロンに参加するのも良いが、本人も参加した方がもっと良い。情報が得られることもあると案内した。

アドバイザー：がんは家族も一緒に闘病している。家族も不安になったり心配になったりする。家族の思いを受け止める、話を聞くだけでも少しは不安や心配が取れると思う。家族の話を聞くのも大事な役割。

ピアサポーター：いろいろ話してくれたが、がん種が違うので自分の知らない事が多かった。そのためほとんど傾聴に徹した。他のサポーターが間を取り持ってくれた。治療の話しが中心だとサポーターは何も言えない、聞いているだけになる。他のサポーターが話題を変えたりしてくれたが、ずっと聴くだけでもきつい。ひとりで対応する時はどうしたらいいのか？治療に関しては話せないし、自分の体験を話し過ぎてもいけない。同じ体験をした人が別のグループにいたので、ひとりこちらに来てもらっても良かったかなと思った。しかし参加者が来て話して初めて分かることなので、難しい点だと思う。

ピアサポーター：たまたま検査で来院してチラシを見て参加してくれた人がいた。検査の結果が良くなかったらしく結構落ち込んでいたと思う。しかし本人の性格だと思うが、割と前向きな人なのかなという感じを受けた。前は1～2日で切り替えができたが今回は大丈夫かなと言っていたので、自分の例を出して、不安はあると思うが冷静になって色々考えましようと言った。今後のことを前向きに考えているようだったが、継続して関わられたらと思った。機会があればまたサポートしたいと思う。

アドバイザー：がん種は違うが皆さんには「がんになった」という経験がある。そこを受け止めてあげる。告知後や検査までの期間、検査結果が出るまでの期間は、どうしても不安だったり心配だったり、かなり落ち込んだりする。そこをちょっと受け止めて共感する。参加者は今日帰ったら少し考えたりすると思うが、笑顔になっていただけたので良かったと思う。

ピアサポーター：参加者の表情を見ていて、よく話してくれたと思う。そう思うとピアサポーターとして今回は良かった。参加者の表情がほぐれてどんどん話していた。人は悩んでいる事とかを聞いて話すだけで変わってくる。

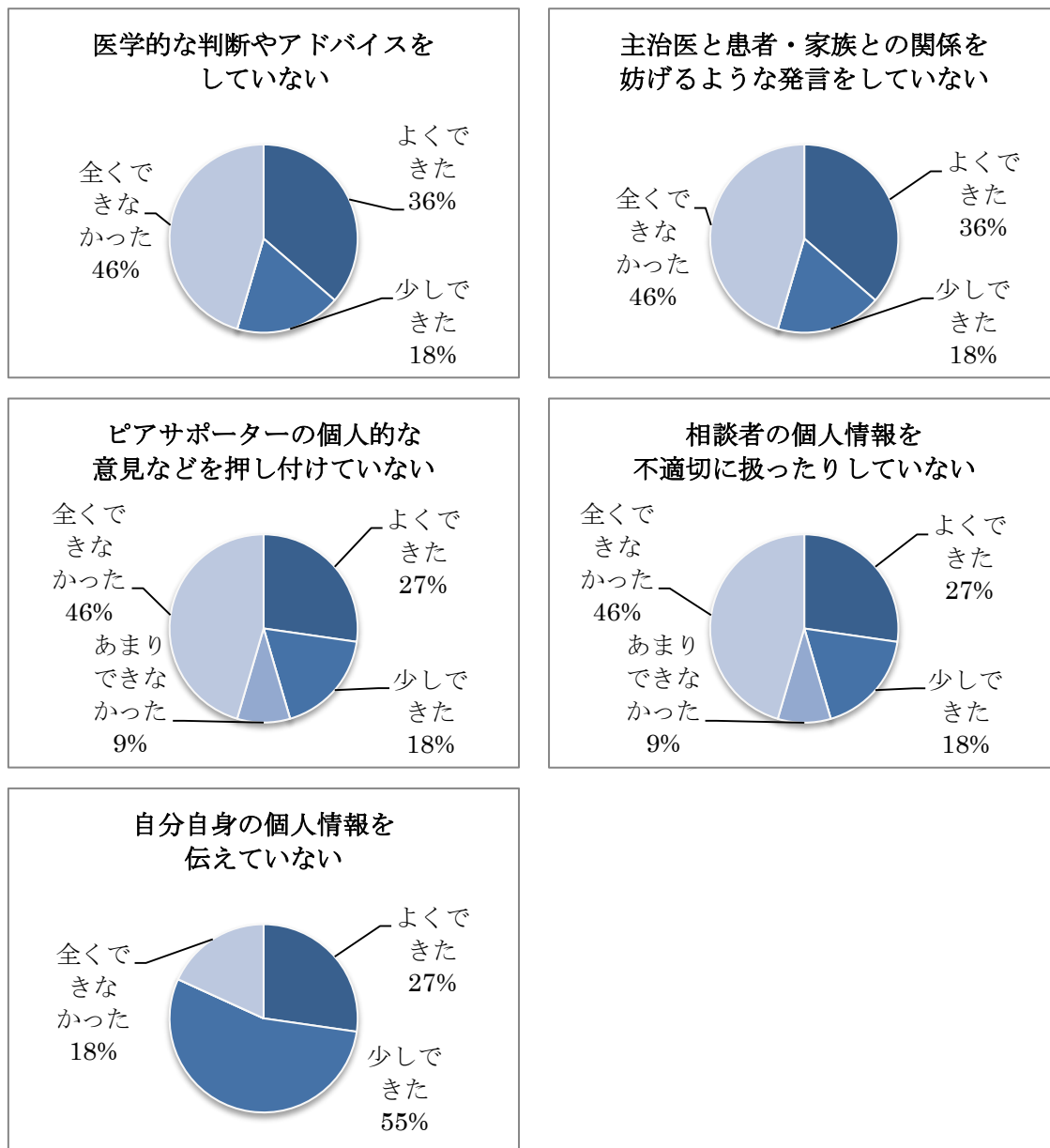
アドバイザー：話しながら自分の中で少し整理したりする。皆さん上手にサポートしていたと思う。

自己チェックシート（11 枚）

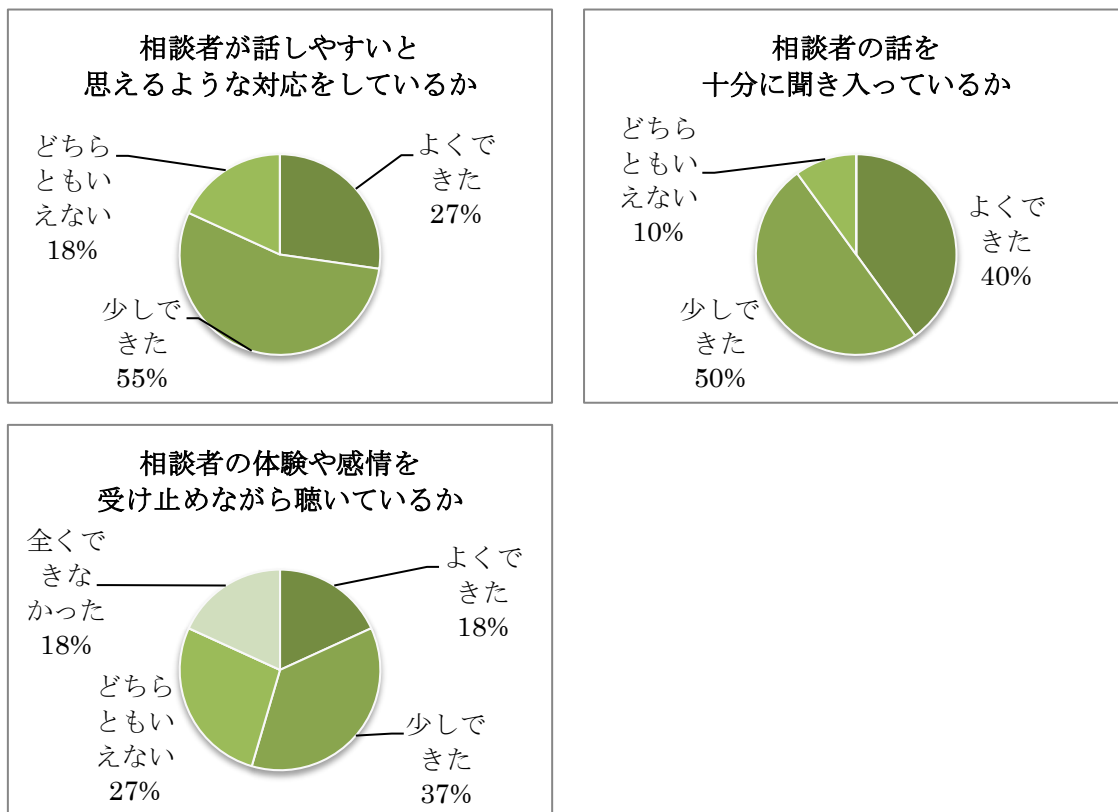
*対応した人1組につき1枚記入

*複数人で対応しているため、シート内容の重複あり

1. 対応について



2. 相談者について



3. ピアサポートを実施して、相談者に変化はあったか？

- ・警戒心がなくなり、話がどんどん出てきた 8 件
- ・感情の表出があった（泣く、怒る、黙るなど） 1 件
- ・同じ質問の繰り返しであった 1 件
- ・表情が明るくなり、声のトーンや言葉が前向きになった 7 件
- ・話を聞いてもらってよかったという反応があった 5 件
- ・その他 0 件

4. ピアサポートを行っていて困ったことや悩んだことはあったか？

- ・特になかった 5 件
- ・困ったこと、悩んだことがあった 6 件

内容	どのような対応をしたか	相談者の反応は？
どのように話をしようか少し迷った。	天気の話からした。	話しやすい雰囲気になった。
自分とは違うがんの体験者なので、患者の話をずっと聴くだけというのも、結構きついものがある。（同様の内容 他 1 件）	別のサポーターやアドバイザーの助け（フォロー）があったのでよかった。	けっこう明るい表情でお帰りになったのでよかったのだと思う。

内容	どのような対応をしたか	相談者の反応は？
乳がんの人だったので、無理がありました。	同じ病気のサポーターに話してもらった。	帰る時は明るくなりました。
電話番号を聞かれた。	同じ患者会なので会長に聞かないとわからないと伝えた。	「では今度の患者会で」という事で笑顔だった。
自分の体験のお話の中でうっかり「死」と言ってしまったので本当に申し訳ない事をしてしまった。	すぐに申し訳ありませんと謝った。	特に変化はなかった。

●所感（青字：アドバイザーの意見、赤字：改善案）

・フリートークでは参加者、ピアサポーター共に初めのうちは口数が少なく、医療者のファシリテートで話すきっかけが作れていた。しかし 20 分程度の時間が経つ頃には打ち解け、話が盛り上がる場面が多々あった。特に B グループでは途中参加の方も看護師さんの声掛けの配慮もあり、すぐに場に溶け込んでいた印象を受けた。

・初めてサロンに参加するピアサポーターが 2 人いたが、どちらも落ち着いて対応しており特に問題点はないと感じた。

→ 初めてのサポート活動だったが大丈夫だった。1 人は再発に関する不安等の対応をしていたが、最初の告知より再発のほうが不安は大きい。自分の体験も交えながらよく傾聴していた。

・反省会で何度か挙がった「違うがん種だから対応できない」という点は、他のサポーターに代わってもらえるなどの対応を各自で行っており、サポーター同士の仲間意識も感じられた。

→ サポーターに事前に対応できないと感じた時は（例えば男性サポーターが乳がんの患者さんのサポートなど）、サポーター同士で席を代わる等の対応をしても良いことを周知し、アドバイザーに声掛けするよう促す。

・サロンの中で「死」という言葉を使ったことを気にしているサポーターがおり、自身の対応への不安と言葉の責任を重く受け止めていると感じた。参加者に配慮している点では良きことではあるが、あまり気にしすぎても自己を守れなくなるのではと思った。

→ 「死」に対するイメージの問題。「死」という言葉がマイナスとは限らない。中には終活したいという方もおり、その場合は傾聴する。自己チェックシートに「特に変化はなかった」と記載されていることから、サポーターが不安に思うほどではないと思う。実際の対応を見ていると問題があるようには見えなかった。

→ ピアサポーターの心得の読み合わせの時に、「自分自身を大切にする」点を追加してアドバイザーから伝えてもらう。

沖縄県内各拠点病院院内患者サロン参加報告書 2

沖縄県地域統括相談支援センター

●参加目的

沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを各拠点病院の院内患者サロンへ派遣して活動の場の創出を図る。

●イベント概要

- (1) 名 称 一日だけのがんサロン「自分を知ろう」 やいまゆんたく会
- (2) 日 時 平成 29 年 9 月 16 日 (土) 14 : 00 ~ 16 : 00
- (3) 場 所 沖縄県立八重山病院敷地内デイケア室
- (4) 派遣者 がんピアサポーター 1 名
- (5) 引率者 地域統括相談支援センター相談員 1 名、事務員 1 名
- (6) 内 容 ワークショップ、交流サロン、やいまゆんたく会定例会
- (7) 主 催 沖縄県立八重山病院 地域連携室

●当日スケジュール

開始	終了	時間	内容
14 : 00	14 : 15	15 分	ハーモニカの練習
14 : 15	14 : 25	10 分	・ スケジュールの説明 ・ 自己紹介
14 : 25	15 : 35	70 分	「自分を知ろう ～自分の取扱書を作ってみよう！！～」 講師：横田 博史 氏（八重山病院作業療法士）
15 : 35	15 : 50	15 分	休憩（ティータイム）
15 : 50	16 : 20	30 分	意見交換会
16 : 20	—	—	やいまゆんたく会定例会

●ハーモニカの練習

演奏依頼が定期的にあるとのこと、定例会では冒頭の15分を練習時間としているとのこと。計4曲の練習が行われた。



●「自分を知らう～自分の取扱書を作ってみよう！！～」

沖縄県立八重山病院作業療法士の横田博史氏を講師にワークショップが行われた。精神科で行っている WRAP（Wellness Recovery Action Plan：元気回復行動プラン）プログラムを用いた内容であった。参加者は12名。



●意見交換会

ピアサポートを受けたい希望者がなかったことから、急きょ当センターの相談員を含めた本島ピアサポーターと石垣島ピアサポーターの活動に関する意見交換を行った。



▲中央で話しているのは当センター相談員
手前は今回派遣したピアサポーター



▲やいまゆんたく会のメンバー
養成講座修了生も5名在籍している

●反省会（振り返り）

今回はピアサポート対応をしていないため自己チェックシートの記入はないが、参加し
ての感想や感じたことを振り返った。

ピアサポーター：個別または何人かでグループになって対応することを想定していたので、例外だったこともあり自分のことを多く話してしまった。本当はお話を聞きたかった。や
いまゆんたく会の皆さんが話していたことで、自分も同じように感じると思ったところも
ある。ピアサポーターとして研修を受けたが活動する場が少なかったり、なかなか行けな
かったりということは共通している。せっかく無料で受けさせてもらったので、できる限
りのことは自分のできる範囲のことで、これから活動を増やしていけたらと思った。

アドバイザー：活動の場は確かに少ない部分もある。琉大病院の中でさえ活発とは言えな
い。また今回は想定外の部分もあったが場も盛り上がっていたし、おもしろい内容だった
のではないかな。

担当者：想定外のことが起こる可能性は常にあるが、例えばどのようなサポート体制があ
ったら活動する上でいいと思うか。やいまゆんたく会のピアサポーターからは、新病院が
開院して、いきなりピアサポートしなさいと言われてもできないとの意見が挙がっていた。
ピアサポーターへのサポートという意味で、活動する時にどういう体制だと安心できるの
か意見があれば聞かせてほしい。

アドバイザー：厳しい意見として言うと、ピアサポーターには飛び込む勇気が必要だと思
う。やってみないとわからないこともある。私はなぜピアサポートできるのかと考えると、
人の話を聴くということに尽きると思う。相談者を自分に置き換えると、自分は話を聴い
てもらっただけでアドバイスは必要ないと感じているタイプ。だから逆にピアサポートがで
きているのかもしれない。ただ聞いてほしい時があるから、同じようにただ聞いてほしい

人はいると思う。知っている人、友人とか親戚などだと話しにくい。何の関係もない第三者の方が話しやすい時もあるから、そういう場があるといいと思う。聴くだけでも話す側は報われる時がある。

ピアサポーター：聴くことが一番大事だと思うが、聞かれたことに対して何か答えてあげなければいけないなどの意識が働いてしまい、話がちゃんと入ってこない。何か言わなきゃという気持ちで本当に相談者の気持ちに寄り添って話を聴くことができないと研修を受けている時に思った。そうではなく、側にいてその人が話し出すまで時間がかかるかもしれないけど、話し始めると色々出てくる人もいるので、何か自分がアドバイスしなければいけないということじゃなくて、側にいて話を聴くだけでもいいんだよということを、もう少しサポーターの皆さんに伝えれば安心して参加できるのかなと思った。何か言わなくてはいけないのかなと思う人も多し、自分もそうだった。そうじゃないんだということに、ゆっくり気が付いた。聴いてあげるということが一番だと思う。

アドバイザー：自分も初めのころは何か言わなくてはいけないと思っていた。あるコミュニケーションの講師が言っていたが、人の話をちゃんと聞けば質問は自然と出てくるそう。何か言わなきゃと思っている時は人の話を聴いていないから質問は出てこない。でも何か言わなきゃと考えてしまう時もある。ピアサポーターも完璧じゃないから当たり前。

ピアサポーター：今日のように、今ピアサポートやってと言われてもできないよという意見に対して、アドバイザーが「あなたは十分ピアサポートしてますよ」と言ったことは、本人はそんなことはないと否定していたけど、あの一言はすごく大きくて少しは自信になったと思う。

アドバイザー：あの方は十分ピアサポートできていると思う。結構気付いていない人は多い。私なんてできないと言うけど、できるしできている。ただできないと思いつんでいるだけ。

ピアサポーター：ワークショップの普段やっていることの項目で、個人的に相談受けていると言っていたが、それがそのままピアサポートではないかと思う。

アドバイザー：それがピアサポート。彼女は養成講座を受講していないが、十分ピアサポーターとして傾聴し、活動している。彼女がピアサポーターじゃなければ誰がピアサポーターといえるのか。「ピアサポーターとはこうあるべき」という理想があるのかもしれない。他にも気付いたことがある。サロンなどの案内が来ても簡単に参加できないという意見が挙がったときに、離島と本島の差みたいなものはそんなに無いと今まで思っていたが、本島開催の案内だから離島に住む人に来ても戸惑うのだなと思った。そこは気付いていない部分だった。

担当者：担当者としてもずっと気になっていた部分だった。来れないだろうと思って情報を出さないよりも、知っておいてほしい情報提供として考えている。

アドバイザー：離島だけ情報をあげないわけにいかないのが複雑な部分だと思う。皆さんがサロンのためだけに飛行機に乗って行けないと言っていることも、もっともだと思う。でもお金に関することは下手に言えないし、トラブルの原因にもなる。簡単に解決できる問題ではないと思う。

担当者：やいまゆんたく会の雰囲気はどうでしたか？

ピアサポーター：皆さんおしゃべり大好きでとても雰囲気が良かった。ピアサポートはできなかったが今日参加して楽しかった。ワークも楽しかった。

アドバイザー：皆さん楽しそうだった。横田先生が話させるのが上手いというのもあると思うが、よく話していた。やいまゆんたく会のメンバー同士でもワークで気付いた部分とかがあったようで良い会だったと思う。

●所感（青字：アドバイザーの意見、赤字：改善案）

- ・やいまゆんたく会の定例会も兼ねているとのことから、気持ちの吐き出しは会の中ですでに済んでおり特別にピアサポートを受けるという内容ではなかった。しかし会自体はとても楽しく進行しており、メンバーは生き生きとして活動している印象を受けた。

- ・ピアサポート活動の経験が浅いピアサポーターではあったが、臨機応変に突然の質問にも落ち着いた対応をしていたように感じた。

→ 最初は緊張している様子だったが、特に問題点は見られなかった。質問されたことに答えたり、休憩時間にやいまゆんたく会の皆さんと談笑もしていた。

- ・結果的には参加して良かったとの思いが強いが、当初伝えていた内容とは違った形になってしまったことで、ピアサポーターに負担をかけたのではないかと感じる部分もある。

→ 想定と違うことは多々ある。行ってみなければ分からないこともあるので、今回は石垣のピアサポーターとも交流できて良かったのではないかな。

→ 本島から離島へ行く際は、自己の体験やピアサポート活動に関する質問をされることもあると事前にピアサポーターに伝え、答えられるように準備してもらう。

- ・石垣のピアサポーターは活動したい意識が高いことを改めて実感したと同時に、やいまゆんたく会でメンバー同士がお話ししていることもピアサポートであることに気付いてほしいと感じた。

沖縄県内各拠点病院院内患者サロン参加報告書 3

沖縄県地域統括相談支援センター

●参加目的

沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを各拠点病院の院内患者サロンへ派遣して活動の場の創出を図る。

●イベント概要

- (1) 名 称 ゆんたく会
- (2) 日 時 平成 30 年 2 月 6 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00
- (3) 場 所 琉球大学医学部臨床研究棟大学院大セミナー室
- (4) 派遣者 がんピアサポーター 2 名
- (5) 引率者 地域統括相談支援センター相談員 1 名、事務員 1 名
- (6) 内 容 交流サロン
- (7) 主 催 琉球大学医学部附属病院がんセンター

●当日スケジュール

開始	終了	時間	内容
13 : 30	13 : 40	10 分	会場設営の手伝い
13 : 40	14 : 00	20 分	事前打合せ
14 : 00	14 : 10	10 分	ゆんたく会開始、会の説明
14 : 10	14 : 20	10 分	自己紹介
14 : 20	15 : 55	95 分	フリートーク
15 : 55	16 : 00	5 分	閉会のあいさつ、次回の案内
16 : 00	16 : 40	40 分	反省会 (自己チェックシートの記入、振り返り)

●事前打合せ

はじめに当センターの西村によってピアサポーターとしての心得について読み合わせを

行い、ピアサポーターの役割についての再確認を行った。続いて琉球大学医学部附属病院がん相談支援センター相談員（医療ソーシャルワーカー）の大久保氏によってサロンでの注意事項等の説明がなされた。



●ゆんたく会

初めに参加者とともに全体で「ゆんたく会での約束事」の読み合わせが行われた。その後、自己紹介、フリートークへと進行していった。サロン参加者は5人であった。



▲サロンの様子



▲がん資料や県内ゆんたく会の案内等

●反省会（振り返り）

ピアサポーターは対応した人ごとに自己チェックシートの記入を行い、それぞれ参加しての感想や対応を振り返り、今後の対応に活かせるよう情報共有を行った。



*ゆんたく会の常連者も反省会に参加したため、オブザーバーと表記している。

*当センター相談員はアドバイザーと表記している。

ピアサポーター：治療をどうしようとかの話になるのかと思っていたが、想像していたものと違っていた。

大久保氏：今日は新しい方が少ない回だった。いつも3～4名はいらっしゃる。新しい方がいらっしゃると治療が辛いなどのお話が出てきて涙したりということもあるが、今日はそういう場面はなかった。初期の方へのピアサポートとベテランさんへのピアサポートは少し違うかもしれない。しかしベテランさんになると本人に自覚はないかもしれないがピアサポーターとしての働きが大きい。かえって何か気になることはなかったか。

ピアサポーター：皆さん元気で前向きですごく良いなと思った。あの場のベテランさんみたいな人が講演をしたりすると、本人も聞く患者さんももっと元気になると思う。講演といたら大げさかもしれないが、今日のような少人数ではなく、悩んでいる人の前で話してくれると良い。今日の参加者は悩んでいることを乗り越えている人。それがもったいないと思った。前向きな話なので皆に聞いてほしい。話しが上手だと思った。

ピアサポーター：立ち直ってきたという話しはすごいと思った。皆の話を聞いていて、私も経験したなと思い出していた。

オブザーバー：今日はピアサポーターが参加しているとのことで、感想の時にサポーター

はこうしてほしい、こうした方が良いと、余計なことを言ったかなと後から気になっていた。

ピアサポーター：ご家族の方の参加もあって良かった。ご家族が参加してくれることが一番良い。最も悩んでいるのは家族ではないかと思う。

大久保氏：ご本人の悩みとご家族の悩みは少し違う。ご家族だから分かること、言えることもあるので、人が集まったり環境が整えば、ご本人とご家族別々という機会もあって良い。ご本人が「家族の立場の人の話しも聞けて良かった」という回もあったし、家族も「本人はそういう風に思っていたんだ」という回もあったので、相互に混ざることの良い回もある。皆さんはピアサポーターのカリキュラムもしっかり参加されているので、ゆんたく会に来てほしい。どんと構えているピアサポーターがひとりかふたり居てくれると参加者は安心して話ができる。定例で居てくれると、あの人がいるから行こうと来やすくなるようだ。

ピアサポーター：今日は入院中の知り合いに話しを聞くだけでも気が晴れるから来て、と声掛けをしたが来ていなかった。高齢ではあるが、この方も前向きな性格なので話を聴くと元気になれるかなと思った。電話で勇気づけたりしているが、たまたま入院したので声掛けしたが、来てなかったのが残念。

大久保氏：タイミングもあるし、自分が声掛けしていた人もインフルエンザで来られなかった。新しい方が少なかったのはインフルエンザ流行の時期も重なっているためかもしれない。

オブザーバー：今日のゆんたく会はいつもとは雰囲気違っていた。通常は新しい人が3名～4名来るし、久しぶりの人も来るので深刻な話しになったりするが、今日は2名だけがほとんど話していた。

ピアサポーター：気持ちを発散するだけでも良いのではないかと思う。

大久保氏：今日の話しで回答に困るとか、こういうとき声かけて良いのかなど、何か困るようなことはなかったか。

ピアサポーター：独擅場だったので、こちらから声掛けするようなことはなかった。

大久保氏：では逆にピアサポーターとして今後活動するときに、ひとりでたくさん話し続けてしまう人を、他の人にどう繋げるか。

ピアサポーター：難しいと思う。今日お話されていた方は本を持参されていたので、結構本話題を振って自分のところに意識を持って来たりしたが、また皆の方に向いてしまった。

オブザーバー：たくさん話してしまう人の話を終わらせるのは非常にテクニックが必要。ただ、最初に読み合わせた八つの「ゆんたく会の約束事」にあるように、皆言いたいことも聞きたいこともあるはず。だから、できるだけ割り振って話しましょうという意味のことも書いてあるので、サポーターとしてその割り振りが必要。

大久保氏：個人（1対1）でのピアサポートが好きな方もいれば、大人数でのピアサポートが好きな方もいる。ざっくばらんに話したい、色んな意見を一気に聞きたいという方であれば、ゆんたく会などを活用してもらおうと良い。今日は特に困ったことはなかったとい

うことではあるが、なるべくまんべんなく色々な人へ話を繋げる難しさがあった。

ピアサポーター：あまりにも特定の人に時間を取られた反省はある。でもその人たちは気持ちよく帰れたと思う。そういうのも良いのかなという思いもある。しかし時間に限りがあること、もっと時間があれば特定の人が多く話しても良いかなと思う。

大久保氏：聞き続けることもお疲れになると思うので、ピアサポーター自身もセルフケアをしっかりと行ってほしい。

アドバイザー：振り返りの場でしっかり気持ちを落としてほしい。溜めてしまうと家に帰ってから大変なので、スッキリしてから帰ってほしい。

大久保氏：ゆんたく会の2時間は話している方はあつという間かもしれないが、聞くのには体力を使う。そう感じている参加者もいるだろうから、帰り際にお声をかけて少し息を抜いて帰宅させるような配慮が必要な場合もある。それと自身のセルフケアが大事。その点が気になった。仲間が増えることは嬉しいので、ピアサポート活動を継続してくれるとありがたい。

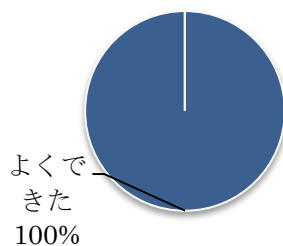
自己チェックシート（6枚）

*対応した人1組につき1枚記入

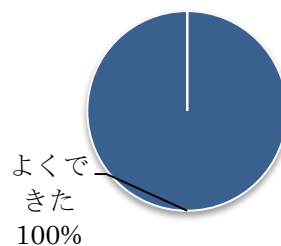
*複数人で対応しているため、シート内容の重複あり

1. 対応について

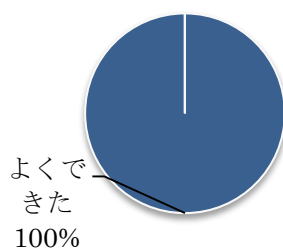
医学的な判断やアドバイスを
していない



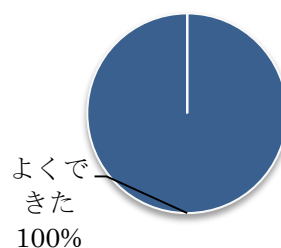
主治医と患者・家族との関係を
妨げるような発言をしていない

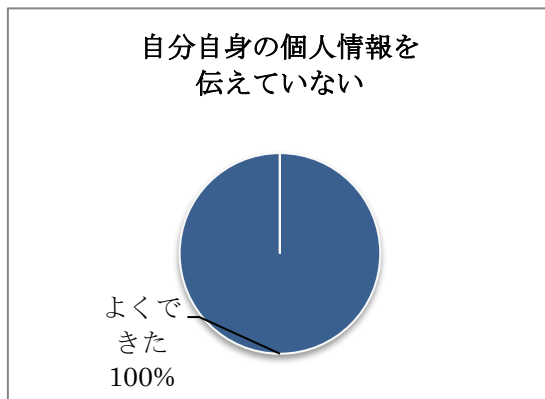


ピアサポーターの個人的な
意見などを押し付けていない

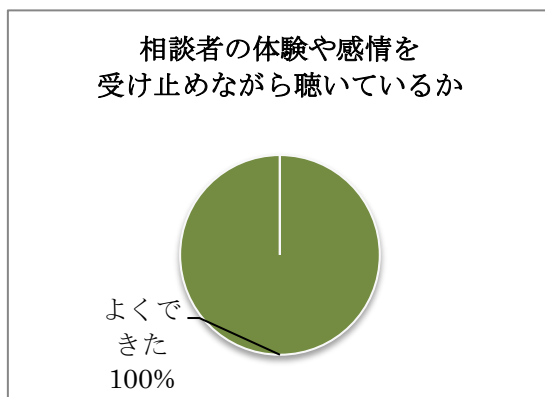
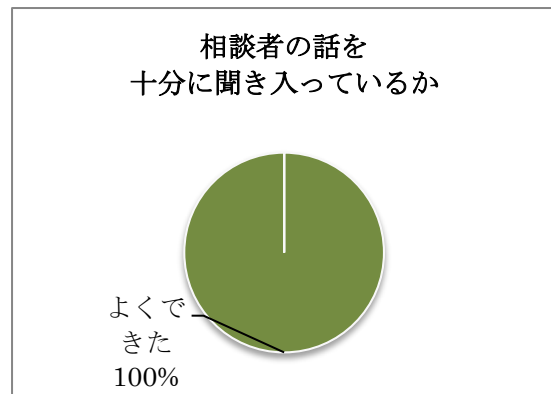


相談者の個人情報
不適切に扱ったりしていない





2. 相談者について



3. ピアサポートを実施して、相談者に変化はあったか？

- ・警戒心がなくなり、話がどんどん出てきた 0 件
- ・感情の表出があった（泣く、怒る、黙るなど） 0 件
- ・同じ質問の繰り返しであった 0 件
- ・表情が明るくなり、声のトーンや言葉が前向きになった 0 件
- ・話を聞いてもらってよかったという反応があった 6 件
- ・その他 0 件

4. ピアサポートを行っていて困ったことや悩んだことはあったか？

- ・特になかった 6件
- ・困ったこと、悩んだことがあった 0件

●所感（青字：アドバイザーの意見、赤字：改善案）

・話が病気のことではない重い内容だったため、話が续かずピアサポーターもどう切り返してしていいか分からなかったのではないかな。最初からピアサポーターが動揺している様子が伺えた。しかし時間が経つにつれ、一人で時間を多く取ってしまう人には意識を変えるような話を振ってみたり、話をしない人へは目線を合わせて一緒に相槌を打つなどの気配りをしていた。

→ 久しぶりの参加と言っており表情が硬かった参加者がいたが、思いを話して表情が柔らかくなっていた。また吐き出す場がゆんたく会の他にないのかもしれない。

・一部意見の押し問答があり、ピアサポーター及びアドバイザーは一切介入しなかったが、どちらの意見が正しいということではなく、双方に歩み寄り、その場を収める働きかけが必要だったのではないかと感じた。

→ 止めて良いものか自分も悩んだので、ピアサポーターもどうしたら良いかと思案していただろう。ピアサポーターは制度に詳しい訳ではないため、簡単に口出しできる領域ではない。

→ アドバイザーが意見のひとつとして捉えてもらえるよう、双方に配慮した言葉かけを行う。

・ゆんたく会ではベテランの人がいる場合もあり、彼らは相談したいわけではない。その際には自身の体験談を話すことも事前に打合せていたが、機能していなかった。最初にピアサポーターが体験談を少し話すことで、会話が繋がると考える。

→ ピアサポーターの心得の読み合わせの時に、体験談を話すことは情報提供のひとつという点をアドバイザーから何度も繰り返し伝えてもらい、認識させる。

沖縄県内各拠点病院院内患者サロン参加報告書 4

沖縄県地域統括相談支援センター

●参加目的

沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを各拠点病院の院内患者サロンへ派遣して活動の場の創出を図る。

●イベント概要

- (1) 名 称 中部地区ゆんたく会
- (2) 日 時 平成 30 年 2 月 27 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00
- (3) 場 所 沖縄県立中部病院 第 3 会議室
- (4) 派遣者 がんピアサポーター 2 名
- (5) 引率者 地域統括相談支援センター相談員 2 名、事務員 1 名
- (6) 内 容 交流サロン
- (7) 主 催 沖縄県立中部病院 がん相談支援センター

●当日スケジュール

開始	終了	時間	内容
13 : 30	13 : 50	20 分	事前打合せ
13 : 50	14 : 00	10 分	参加者受入れ準備
14 : 00	14 : 10	10 分	ゆんたく会開始、ピアサポートの紹介、講演会等の案内
14 : 05	14 : 25	20 分	自己紹介
14 : 25	15 : 50	85 分	「ゆんたく会でのお約束」読み合わせ、フリートーク
15 : 50	16 : 00	10 分	閉会のあいさつ、次回の案内
16 : 00	16 : 30	30 分	反省会 (自己チェックシートの記入、振り返り)

●事前打合せ

はじめに当センターの中山によってピアサポーターの心得について個別に読み合わせを行い、ピアサポーターの役割についての再確認を行った。続いて沖縄県立中部病院がん相談支援センターの島袋氏によって、ゆんたく会での注意事項等の説明がなされた。



●ゆんたく会

島袋氏によるはじめのあいさつの後、ピアサポートについての説明及びピアサポーターが参加している旨の紹介が行われた。続いて次回のゆんたく会や講演会の案内、参加者の自己紹介へと進行し、全員で「ゆんたく会での約束事」を読み合わせ、フリートークへと移っていった。参加者は14人であった。



●反省会（振り返り）

ピアサポーターは対応した人ごとに自己チェックシートの記入を行うが、今回は参加人数が多く、また発言しない参加者もいたため、発言のあった参加者を対象にシートの記入を行った。その後、それぞれ参加しての感想や対応を振り返り、今後の対応に活かせるよう情報共有を行った。



▲ピアサポートについて研究をしていた大学生（左から2人目）の参加もあった。

*当センター相談員はアドバイザーと表記している。

アドバイザー：初めて中部病院のゆんたく会に参加したが、座れないくらい大盛況で、いっぱい来ていただいて自分たちも助かった。参加した印象としては皆さん活発に意見されていたということ。最初に薬についてアドバイスが聞きたいとの内容だったので、医療的な部分になってしまいどうかなと思っていたが、最終的には主治医に聞いてごらんと返してもらえたので、本人にとっては良いアドバイスになったのではないと思う。

ピアサポーター：今まで病院外で3度ピアサポートしたが、イオンモールなどで活動したときは参加者が少なく、沖縄特有の病気を隠す性質からかと思っていた。でも中部病院はこんなにいっぱい参加者がいるんだ、これは中部のカラーなのかと感じた。（自分も中部に住んでいて）他の場所でも中部の人はオープンで隠さないとされたことがあるが、うるま市はさらにすごいと思った。皆がオープンなはずはないが、参加者が「楽しいことをして感謝して生きている」と発言したことに、本当に心が温かくなった。そういう風に自分

も頑張っていきたいというパワーをもらった。毎回色々な話を聴くが、今日のざっくばらんな話は聴きやすかった。

ピアサポーター：自分も色々なサロンに参加させてもらっていて、明るい方はいつもいらっしやるが、今日のようにパワーがあって、力強くて、病気と思えないほど素晴らしかった。そういった雰囲気づくりをされているのかなと感じた。毎回色々な方から気付きや学びをいただいているが、今日もすごくあった。でもやっぱり大人しい方もいたので、そういう方たちは大丈夫なのかなと気になった。

島袋氏：中部病院のゆんたく会の問題点といえば、やはりしゃべる人だけがしゃべってしまわないか、という所。その辺は割と患者さん達も心得ていて「あの人に話をさせた方がよいよ、まだ話してないよ」と私にお知らせしてくれる。どうしても初めて来た方にいっぱい話してもらおうというスタンスがあり、それで今日は先に初参加の方に話を振った。後回しになると時間が無くなってしまうということもあるので、話し過ぎる人たちをいかに止めるかという所が難しい。上手く話を変えたりしながら進めているが、困ると皆は私に目で助けを求めてくる。医療的な話になると皆さんもどう答えていいのか困る部分で、自分の経験だよと前置きして話したりしているが、すごいなと思うところが先生に話した方がよいとアドバイスしていたり、前向きになれるような発言が出る所は毎回変わらない。参加した患者さんが元気をもらって帰っている。今日参加したのはいつもの参加者で、ピアサポーターのふたりが話してくれた内容から元気をもらっていると思う。皆さん今日は良かったと言って帰っていかれたので、良い回だったのではないかな。

続けることの難しさは常に感じているが、参加者が率先して次の回の参加をお互いに促している。自分がいても患者サロンは成り立たない。患者さんがいてこそ成り立つ中で、ピアサポーターの皆さんには、いつもの中部病院のゆんたく会を体験してもらって、学んでもらって、皆もどんなことが聞けるのかと楽しみに参加している。そういう所もすごく良かったと思った。患者サロンはそれぞれの地域で良い所が違う。サロンを実際にやるのは患者さん、ピアの方たちなので、良い部分は真似をして続けていけるように、皆が集まれる場所をキープしていくのが自分の役割だと思っている。

アドバイザー：人数が多いと最後はいつも2～3人に分かれて話す感じか。

島袋氏：分かれた時は、それはそれで良しとしている。ただひとりだけポツンとなっている人がいないかだけは気にかけている。ピアサポーターとして活動する際に参加人数が多いときには、その点にも注意を払ってもらいたい。また最初からグループを分けることもある。乳がんの患者さんは多いため、どうしても偏ってしまうことがある。いろんながん種の方がいる中で、乳がんの患者さんばかりになると集めた方がよい時もある。そういう部分も中部地区の課題。いろんな所で患者会や患者サロンの活動があることは希望が持てる。

担当者：今日参加してピアサポーターのふたりは困ることや対応し難いことはなかったか。

ピアサポーター：常連の方に質問されて、担当者に助けを求めたことがあった。ピアサポートに関して興味を持たれていたが、事業に関することだったのでどう答えていいのか分からなかった。でも最後にニコッと笑顔を見せて帰られたので、今日お会いできて良かった。

たと思った。

島袋氏：あの方には何度か発言を促したが、今日は聞きたいとおっしゃっていた。サポーターが質問されていることに気付いたが、担当者が入っていたので遠慮した。おふたりに会ったときに、聞きたいことがあったようだ。

担当者：困ったことだけでなく、自分の中での課題や、やり難かったことなどあれば、担当者として組み直さないといけないので、気付いていることがあれば教えてほしい。

ピアサポーター：盛り上げてくれる人がいてくれてムード的にも良いが、大人しい方々のことがやはり気になった。隣だと質問したりして自然に会話に入っていけるが、席が離れていると声掛けはし難い。席を移動して話し掛けるのは何だかわざとらしい気がする。

アドバイザー：自分の隣に座っていた方はピアサロンに参加してくれた人。その時にとっても癒されたようで、ゆんたく会へ繋ぐことができたのかなと感じている。

島袋氏：ゆんたく会に来た当初はすごくお話していて、皆はひたすら聞いていた。それが良かったと思う。今は聴くことも意識していて、自分がお話したい所を押さえて聞いているなど分かる。話したいというだけではダメで、そこが研修を受けているピアサポーターと違う部分。その場の中で理解していく、という感じがゆんたく会にはある。勉強家の人もいるが皆に押し付けたりはしない。自分が経験したことを皆に伝えるので、聞いている方は、なるほどなど思っている。基本は先生を信頼しており、自分のやっている治療をきちんと自分で理解するという思いが根本にあってお話しされている。今日は皆さん発言している方だった。

ピアサポーター：いつも同じメンバーさんなのか。

島袋氏：大体同じ。今日はひとりだけ新しい人だった。あとは今日のメンバーが代わる代わる来るという感じ。そこに新しい方がひとりかふたり加わる。今日は常連さんがいっぱい来てくれた。

ピアサポーター：いつも何名くらいの参加なのか。

島袋氏：10名前後くらい。常連さんは今日の参加者の中から3～4人くらいだが、多いときは全員来る。新しい人がいないときはこのメンバーになる。その時には趣向を変えて、1ヶ月に起こった出来事を話したりする。新しい人が参加したときは、その人の話を聴いてアドバイスしたりするのが中部の感じ。拠点病院となった平成19年から患者サロンを行っている。常に医療者が入りながらという形で行っているが、ピアサポーターが来てくれて嬉しいので、また来てほしい。

アドバイザー：今日もすごく勉強になった。今後もできる限り参加させていただきたい。

自己チェックシート（5枚）

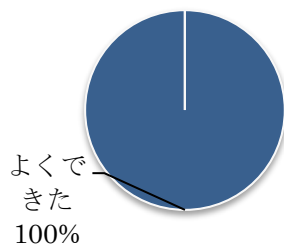
*対応した人1組につき1枚記入

*複数人で対応しているため、シート内容の重複あり

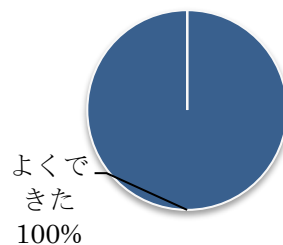
*参加者が多かったため、発言した人のみシートへ記載

1. 対応について

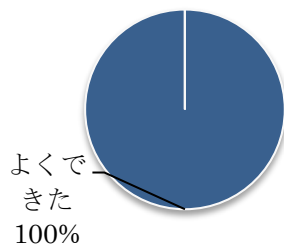
医学的な判断やアドバイスを
していない



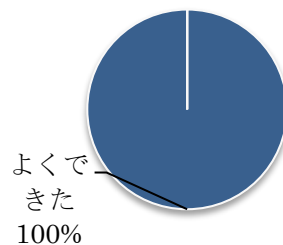
主治医と患者・家族との関係を
妨げるような発言をしていない



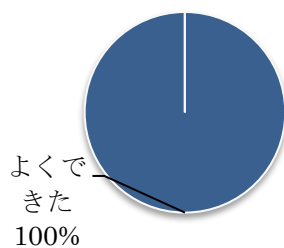
ピアサポーターの個人的な
意見などを押し付けていない



相談者の個人情報
不適切に扱ったりしていない

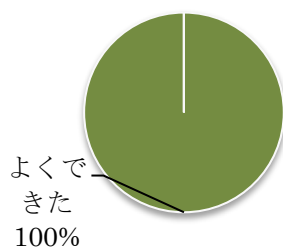


自分自身の個人情報を
伝えていない

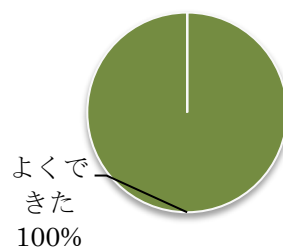


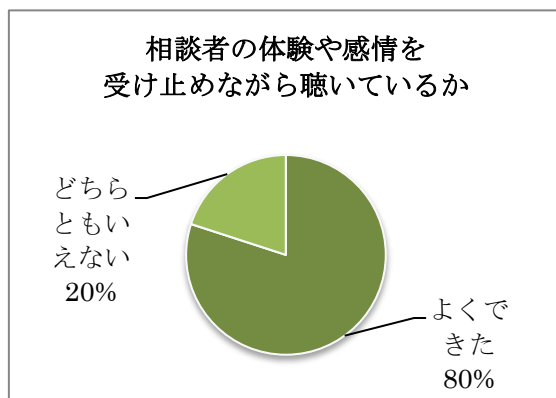
2. 相談者について

相談者が話しやすいと
思えるような対応をしているか



相談者の話を
十分に聞き入っているか





3. ピアサポートを実施して、相談者に変化はあったか？

- ・警戒心がなくなり、話がどんどん出てきた 5件
- ・感情の表出があった（泣く、怒る、黙るなど） 0件
- ・同じ質問の繰り返しであった 0件
- ・表情が明るくなり、声のトーンや言葉が前向きになった 2件
- ・話を聞いてもらってよかったという反応があった 0件
- ・その他 0件

4. ピアサポートを行っていて困ったことや悩んだことはあったか？

- ・特になかった 4件
- ・困ったこと、悩んだことがあった 1件

●所感（青字：アドバイザーの意見、赤字：改善案）

・参加者が多かったが一つのグループで進行し、全員で話を共有している。賑やかでも会話を妨げることなく、全員がお互いに配慮している感じが伺えた。聞くだけという人も多い。またがん相談支援センターの島袋氏が最初に声掛けをして会話を促した後は、自然と会話が続いていくなどアットホームで新規でも入りやすい印象を受けた。治療後間もない参加者が多いようである。

→ ゆんたく会に連帯感があった。がん種がバラバラでもこんなにひとつになれるのかと驚いた。宇宙船子宮号などの患者会ではがん種が同じということで深い内容の話で盛り上がるが、同様の印象を受けた。参加者も医療者も「前向きになる場」という目的意識が共有できているからではないか。また地域の病院という感じで医療者と患者の距離が近いところも参加しやすい要因だと思う。

・中部地区ゆんたく会へ参加する人が多いのは、中部はオープンな気質だからではないかとピアサポーターが振り返りで述べていたのが印象的であった。

→ 確かに中部はオープンな印象を自分も持っている。しかしそれだけではなく参加者同士が次回を誘い合っていたり、今日来ていなかった人へ声掛けしてみるとい

う話しも聞こえていたので患者力もあると思う。ゆんたく会に医療者も多く参加していたことから病院自体の連携も強いと考えられる。

- ・ピアサポーターは傾聴が主ではあるが、情報提供も役割として持っている。会話がひと区切りして次の話題に移りそうなとき、サポーターが主導して話題提供や会話を振ること、または自身の体験を話すなど、もう少し積極性が欲しい。

- ピアサロンでも誰が仕切るのかという雰囲気になる。また医療的な話しになると返答に困るとか、下手なことは言えないという意識が働くため難しい。話し過ぎる人を止めたりするのも同じように難しい。ファシリテートのスキルが必要。しかし薬や治療は違っても、同じような経験や同じがん種であれば、参考になることは大いにあるので会話に入って欲しいという思いはある。

- 事前打合せの際に、リーダーを決めて会話を振ることができるかピアサポーターとその都度決める。難しいとのことであれば、最初はアドバイザーが行う。

- ・ピアサポーターは傾聴や周囲への配慮等に何ら問題はなく、サポーターとして慣れてきたように感じた。

- 最初の頃とは印象が変わった。以前は自分のことで精いっぱいという感じも少しあったが、落ち着いた対応をしていた。また以前は自分の体験を話さなかったサポーターも、今日は話していた。活動を通して自分をさらけ出せるようになったのかもしれない。

- ピアサポーターの習熟度はそれぞれ違う。参加回数が多いサポーターと全く活動しないサポーターでは2年で大きな差が出た。今後は参加回数の少ないサポーターと多いサポーターをペアにし、ゆんたく会等へ参加することで対応を学ぶ機会をつくる。

- ・離れている席にいる参加者への声掛けが難しいというピアサポーターの意見に関して改善策は打ち出せていない。今後の課題とする。

3 事業実績書

都道府県名 沖縄県

事業名	がん医療連携体制推進事業 (沖縄県地域統括相談支援センター事業)	事業 区分	④
事業実施期間	平成 29 年 4 月 2 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日		
事業内容	1. がんピアサポーター人材育成業務 宮古島在住のがんピアサポーターの育成を目的に養成講座を開催した。 名 称 平成 29 年度 がんピアサポーター養成講座 日 時 平成 29 年 7 月 22 日 (土) 13:00～17:10 8 月 19 日 (土) 13:00～17:55 9 月 9 日 (土) 13:00～16:45 場 所 ホテルニュー丸勝 6 階 会議室 対 象 ①がん患者およびがん患者のご家族、ご遺族 ②最終治療後 2 年以上が経過し、現在病状の安定している方 ③全日程参加できる方 ④受講後、治療や仕事や生活に支障がない範囲でセンターの登録がんピアサポーターとして活動できる方 目 的 ①がん体験をした人やその家族が仲間（ピア）として「体験を共有し、ともに考える」ことで、がん患者やその家族を支援する活動「がんピアサポート」をこれから始める方が、1 対 1 での対応に関する基本的な事項事項を学ぶ。 ②受講生同士に仲間意識を持たせ、今後のセンター及び個々の活動が互いに連携できる環境をつくる 内 容 1 日目 (7/22) ●アイスブレイキング 他己紹介を行う ●講義「がんピアサポートとは何か」 ピアサポートの定義、重要性、活動内容などを学ぶ ●ワークショップ「自分の体験を語る」 自己の体験を語れるように整理し、傾聴を学ぶ ●講義「がんの基礎知識」 知っておくと役に立つ医学的知識を学ぶ 2 日目 (8/19) ●ワークショップ「ピアサポーターにとって大事なこと」 DVDを観ながら必ず守るべきことなどを学ぶ ●講義「精神腫瘍学について」 がん患者のこころの動き、専門家への紹介の仕方を学ぶ ●ワークショップ「より良いコミュニケーションのために」 DVDを観ながら接遇の基本的や、効果的な言葉の使い方を学ぶ 3 日目 (9/9) ●ロールプレイ 実習を行うことにより、実際のピアサポートを体験する 講 師 ●講義「がんピアサポートとは何か」 西村克敏 (沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) ●ワークショップ「自分の体験を語る」 仲田ひろ子 (沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) ●講義「がんの基礎知識」 増田昌人 (沖縄県地域統括相談支援センター センター長) ●ワークショップ「ピアサポーターにとって大事なこと」 中山富美 (沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) ●講義「精神腫瘍学について」 川田聡 氏 (沖縄県南部医療センター・こども医療センター 精神科医) ●ワークショップ「より良いコミュニケーションのために」 橋本佳奈 (沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) ●ロールプレイ		

西村克敏
(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員)

受講生 応募者 7 名
1 日目参加者 5 名
2 日目参加者 7 名
3 日目参加者 7 名
修了者 6 名 (1 名は 2 度目の受講のため)

2. がん相談業務

がんピアサポート相談室（病棟・外来含む）にて、がん罹患経験のある相談員（看護師・ボランティア）が、がんに関する心配ごとを抱えた患者本人および家族の方を対象に相談支援を行った。

相談月	対応日 (日)	相談件数 (件)	相談形式内訳(件)					1 日平均 (人)
			相談室	病棟	外来	電話	その他	
平成29年 4月	11	28	8	17	1	2	0	2.5
平成29年 5月	14	40	6	33	1	0	0	2.9
平成29年 6月	14	34	8	23	0	3	0	2.4
平成29年 7月	16	30	3	27	0	0	0	1.9
平成29年 8月	15	33	3	27	1	1	1	2.2
平成29年 9月	15	30	6	18	4	2	0	2.0
平成29年10月	16	32	4	26	0	2	0	2.0
平成29年11月	13	26	4	17	1	4	0	2.0
平成29年12月	14	29	3	25	0	1	0	2.1
平成30年 1月	15	36	1	31	1	3	0	2.4
平成30年 2月	12	22	1	21	0	0	0	1.8
平成30年 3月	13	30	6	23	0	1	0	2.3
計	168	370	53	288	9	19	1	2.2

相談内容	①がんの治療	169 件
	②症状・副作用・後遺症	63 件
	③不安・精神的苦痛	50 件
対応内容	①傾聴・語りの促進・支持的な対応	346 件
	②情報提供	12 件
	③助言・提案	8 件

【参考】

平成28年度対応日 190 (日)
平成28年度相談件数 468 (件)
・相談室対応件数 71 (件)
・病棟対応件数 346 (件)
・外来対応件数 16 (件)
・電話対応件数 32 (件)
・その他対応件数 3 (件)
平成28年度1日平均 2.5 (人)

相談場所	相談件数
地域統括相談支援センター	370
その他(サロン・ゆんたく会など)	29

*その他の詳細は3、5、6ページに記載

3. がん患者等関係者及びがん対策関係者との連携推進業務

(1) がん患者等関係者及びがん政策関係者との協働によるがん相談支援に関する普及啓発活動

① がん患者やその家族が気持ちを分かち合い、情報交換する場としてがんピアサロンを開催した。また院外で行うことにより地域統括相談支援センターの普及啓発を図る。
加えて養成講座修了生の活動の場として人材育成も兼ねる。

- (i)

名 称

がんピアサロン
- 日 時

平成29年7月2日(日) 14:00~16:00
14:00「ヨガ体験」
15:00「サロンタイム」
- 場 所

北中城村立中央公民館 1階 和室
- 内 容

前半の「ヨガ体験」によって体をほぐし、打ち解けやすい雰囲気を作り、フリートークを行った。
- 講 師

知念 真由美 氏
(一般社団法人 日本ヨーガ療法学会 認定ヨーガ療法士)
- 参加者

一般：ヨガ体験6名、サロンタイム8名
ピアサポーター：3名(がんピアサポーター養成講座修了生)
- (ii)

名 称

がんピアサロン
- 日 時

平成29年11月11日(土) 16:00~21:30
昼の部 16:00~18:00
16:00「ウォーキング教室」
17:00「サロンタイム」
夜の部 20:00~21:30
- 場 所

てだこ広場(リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017沖縄うらそえイベント会場内)
- 内 容

昼の部は、前半にイベント内コースを利用した「ウォーキング教室」でイベントに参加し、その後フリートークを行った。
夜の部は、RFL実行委員会と協働(合同)で、生活のことや病気についての気持ちを語り合うための交流サロンを行った。
- 講 師

間島 奈央子 氏
(キャンサーフィットネス認定 インストラクター)
- 参加者

昼の部
一般：ウォーキング教室5名、サロンタイム5名
ピアサポーター：7名(がんピアサポーター養成講座修了生)
夜の部
一般：6名(RFL実行委員を含む)
ピアサポーター：4名(がんピアサポーター養成講座修了生)

名称	開催日	相談件数 (件)	参加者 (人)	相談記入シート (枚)
がんピアサロン	7月2日	6	8	10
がんピアサロン	11月11日	7	11	14
合計		13	19	24

*参加者と相談件数の不一致は、参加しても発言しないことがあるため。
*相談記入シートは、複数人で対応しているため重複している。

② 地域統括相談支援センターの普及啓発のためのパネル展を開催した

- 名 称

がんピアサポート展 ～ 泣いていい場所、提供します。～
- 日 時

①平成29年7月3日(月)～14日(日)
沖縄銀行西原支店 待合ロビー

②平成29年11月11日(土)～12日(日)
てだこ広場
『リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017沖縄うらそえ』イベント内ブースにて開催

③平成30年2月4日(日)
宮古島市働く女性の家 1階 軽運動室
『がん相談できる島づくり がんピアキャラバン』内で開催
- 内 容

センターの概要や利用方法、相談実例などのパネル展示と情報コーナーの設置

(2) がん患者等関係者及びがん対策関係者との意見交換会の開催

- ① がん患者会の実際の活動の様子を視察するとともに相互の連携を図るために意見交換に参加した。

名 称	患者会視察及び意見交換会
視察先	公益社団法人 日本オストミー協会沖縄県支部
日 時	平成29年11月4日(土) 10:30～12:30
場 所	中頭病院 2階 講義室
参加者	平良美代子 氏(株式会社琉球光和 ヘルスケア事業部 ハッピーストーマ推進室係長) 嘉手川厚子 氏(中頭病院 皮膚・排泄認定看護師) 西村克敏(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) 橋本佳奈(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) 安里君代(沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員)
内 容	活動内容の確認や設立の経緯、活動資金等の運営に関することや患者会を訪れる人が主に感じている不安などについて情報交換を行う。また、利用者に対して相談室や患者会を紹介するために相互の連携協力関係を築く旨の意思疎通を図る。

- ② 養成講座修了生のピアサポーター同士が親交を深め、今後の活動円滑化のために意見交換会を開催した。

(i) 名 称	沖縄県地域統括相談支援センター相談員ミーティング
日 時	平成29年5月15日(月) 15:00～16:30
場 所	沖縄県地域統括相談支援センター
内 容	相談対応に関する情報共有と、事業に関する意見出しを行う
参加者	橋本佳奈(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) 中山富美(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) 西村克敏(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) 安里君代(沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員)
(ii) 名 称	がんピアサポーター交流会
日 時	平成29年12月2日(土) 14:00～16:00
場 所	北谷町海業振興センター うみんちゅワーフ 2階 会議室
参加者	ピアサポーター2名(養成講座修了生1名、未修了生1名) 橋本佳奈(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) 中山富美(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) 仲田ひろ子(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) 西村克敏(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員) 安里君代(沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員)
内 容	ピアサポーターが参加した事業について写真資料を用いて報告を行った。お茶を楽しみながらリラックスした時間を一緒に過ごすことでお互いの事を知る場の提供を行う。またサポーターの近況報告により所属患者会等、センター以外での活動を知る機会でもある。

- ③ 地域統括相談支援センターの活動に資するため、がん対策関係者による事業評価を行った。

名 称	沖縄県地域統括相談支援センター事業評価会議
日 時	①平成29年 6月 2日(金) 10:00～11:00 ②平成29年11月10日(金) 9:00～10:00
場 所	沖縄県地域統括相談支援センター
参加者	天野慎介 氏 (一般社団法人 グループ・ネクサス・ジャパン 理事長) 増田昌人(沖縄県地域統括相談支援センター センター長) 安里君代(沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員)
内 容	地域統括相談支援センター事業に対するアドバイス及び県外のピアサポートの動向など情報提供をいただく。

(3) がん相談に関する自主的・自立的活動の推進

- ① 「がん相談等がん支援活用する県民の増」を推進するために、がん患者会や医療従事者と連携し、イベント「がんピアキャラバン」を行った。

名 称 がん相談できる島づくり がんピアキャラバン
 日 時 平成30年2月4日(日) 13:00～16:00
 13:00 講演会・パネル展
 14:50 相談会
 場 所 宮古島市働く女性の家 ゆいみなあ
 内 容 講演会は「がん患者さんのアピアランスケアを考える～外見ケアが必要になったら体験者に聞いてみよう～」をテーマに講演と座談会を行った。その後、医師とピアサポーターによる相談会、外見ケアの実演会を行った。全体を通してパネル展は随時展示していた。
 講 師 講演会
 ●講演「がん患者さんのアピアランスケアとは」
 増田昌人
 (沖縄県地域統括相談支援センター センター長)
 ●座談会「外見の変化、わたしの場合。」
 仲田ひろ子
 (沖縄県地域統括相談支援センター 相談員)
 まんま宮古2名(がんピアサポーター養成講座修了生1名)
 ●講演「外見ケアセミナー」
 板谷さち 氏
 (資生堂ジャパン株式会社 コスメティクスブランド事業部 九州・沖縄事業部 コスメティクス担任)
 相談会
 ●医師による相談
 増田昌人
 ●ピアサポート相談
 仲田ひろ子
 中山富美
 (沖縄県地域統括相談支援センター 相談員)
 実演会
 板谷さち 氏
 参加者 講演会14名、相談会1名(医師による相談)

名称	開催日	相談件数 (件)	参加者 (人)	相談記入シート (枚)
ピアサポート相談会	2月4日	0	0	0

(4) 養成したがんピアサポーターによるピアサポート活動の推進

ピアサポート活動を推進し相談対応の実績を積むため、県内の各拠点病院に既存する院内患者サロンへピアサポーターの派遣を行った。

- (i) 名 称 那覇がん患者ゆんたく会 がんピアサロン
 日 時 平成29年8月16日(水) 14:00～15:30
 14:00「患者サロン100回記念ミニコンサート」
 14:30「がんピアサロン」
 場 所 那覇市立病院 1階ロビー
 内 容 患者サロン100回記念ミニコンサート、交流サロン
 派遣者 ピアサポーター5名(ピアサポーター養成講座修了生)
 引率者 西村克敏(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員)
 安里君代(沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員)
 参加者 ミニコンサート約40名、ピアサロン6名
- (ii) 名 称 一日だけのがんサロン「自分を知ろう」 やいまゆんたく会
 日 時 平成29年9月16日(土) 14:00～16:20
 14:00「自分を知ろう」
 15:50「ゆんたく会」
 場 所 沖縄県立八重山病院敷地内デイケア室
 内 容 ワークショップ、交流サロン、やいまゆんたく会定例会
 派遣者 ピアサポーター1名(ピアサポーター養成講座修了生)
 引率者 橋本佳奈(沖縄県地域統括相談支援センター 相談員)
 安里君代(沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員)
 参加者 12名
- (iii) 名 称 ゆんたく会
 日 時 平成30年2月6日(火) 14:00～16:00
 場 所 琉球大学医学部臨床研究棟大学院大セミナー室
 内 容 交流サロン

派遣者 ピアサポーター 2 名（ピアサポーター養成講座修了生）
 引率者 西村克敏（沖縄県地域統括相談支援センター 相談員）
 安里君代（沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員）
 参加者 5 名

(iv) 名 称 中部地区ゆんたく会
 日 時 平成 3 0 年 2 月 2 7 日（火） 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0
 場 所 沖縄県立中部病院 第 3 会議室
 内 容 交流サロン
 派遣者 ピアサポーター 2 名（ピアサポーター養成講座修了生）
 引率者 中山富美（沖縄県地域統括相談支援センター 相談員）
 西村克敏（沖縄県地域統括相談支援センター 相談員）
 安里君代（沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員）
 参加者 1 4 名

名称	開催日	相談件数 (件)	参加者 (人)	相談記入シート (枚)
那覇がん患者ゆんたく会 がんピアサロン	8月16日	6	6	11
一日だけのがんサロン やいまゆんたく会	9月16日	0	12	0
ゆんたく会	2月6日	3	5	6
中部地区ゆんたく会	2月27日	7	14	5
合計		16	37	22

* 参加者と相談件数の不一致は、参加しても発言しないことがあるため。
 * 相談記入シートは、複数人で対応しているため重複している。

4. その他

(1) 情報提供を行う

- ① 既存ホームページの内容充実のために随時告知や開催報告、月毎の相談室カレンダーの掲載を行った。
- ② NCCN (National Comprehensive Cancer Network) ガイドラインサイト、PDQ (Physician Data Query) のがん情報要約より日本語訳の臓器別閲覧用冊子に関する一覧表を掲示し、希望者には冊子形態にして配布した。
 その他、利用者の要望に応じてホスピス等のホームページを印刷し情報提供を行った。
- ③ 国立がん研究センターがん対策情報センター発行の各種がん冊子の一覧を掲示し、相談対応を行う際に配布を行った。

(2) 地域統括相談支援センター相談員のスキルアップのため学会や他県開催の研修会に参加する

相談員のスキルアップのために学会及び研修会に参加した。

(i) 名 称 がん患者学会2017
 日 時 平成 2 9 年 1 2 月 1 6 日（土）～ 1 7（日）
 場 所 大阪国際がんセンター
 内 容 1 日目 国のがん対策推進基本計画、がんゲノム医療、がん登録などに基づく医療施設別データの見方などについて学び、今後へ向けての議論を行う。
 2 日目 午前中は、昨年要望の多かったテーマについて参加団体の取り組みの事例を共有するとともに、今後へ向けての議論を行う。
 午後は、午前と同テーマについて分科会形式で学び、今後へ向けての議論を行う。
 テーマ 1 「緩和ケア」

	テーマ2「政策提言」 テーマ3「ピアサポート」 テーマ4「がん教育」 テーマ5「がんサバイバーシップ」 参加者西村 克敏（沖縄県地域統括相談支援センター 相談員） 仲田 ひろ子（沖縄県地域統括相談支援センター 相談員） (ii) 名称第2回がん患者カレッジ～がん教育～ 日時平成29年12月18日（月） 場所大阪国際がんセンター 内容講義「がん教育の現状と課題とは？」 「子ども達に伝えておきたいがんの知識」 「がん教育の実践について～行政の立場から～」 「がん教育の実践について～外部講師の立場から～」 「外部講師（がん患者）に求められること」 ワークショップ「自身の体験を整理してみよう」 「がんの知識をどんな言葉で伝えれば分かりやすいか」 「がん教育で大切にしたいこと」 参加者西村 克敏（沖縄県地域統括相談支援センター 相談員） 仲田 ひろ子（沖縄県地域統括相談支援センター 相談員）
事業実施における効果	1. がんピアサポーター人材育成業務 沖縄県から離島での開催提案があったことにより、検討を行った。宮古島での開催を決定した背景には、平成24年度の参加を最後にそれ以降宮古島在住のピアサポーターが誕生していないことと、養成講座修了生が3名と少なかったためである。同じような人口の石垣市には7名の養成講座修了生がいることも理由のひとつである。 宮古島市で開催したことにより、新たに6名のサポーターが誕生した。養成講座への参加者は7名であったが、1名は以前に受講したことがあり復習のための受講となっている。前年度と同様に、修了生は地域統括相談支援センターの登録ピアサポーターとしての位置づけを行い、現在活動可能なサポーターは35名となった。 参加者がいるのか未知数であったことから、市内の新聞2紙に広告掲載したことで患者家族の参加が得られた。また受講生からは「小さな島なのに、はじめて繋がる人がいて嬉しい」「仲間が増えた」との声が聞かれ、養成講座を通して横繋がりを広げること期待が持てる。また、患者会に所属している受講生が多いことが本島との違いであり、活動場所の創出が大きな課題として残っている。 2. がん相談業務 昨年度に引き続き地域統括相談支援センターでの相談業務は招聘看護師4名とボランティア1名で対応している。 ピアサポート相談員は他病院に所属している者、資格取得のため学校へ通う者、家族の介護をしている者など、それぞれ時間的拘束に制限がある。そのため担当曜日の変更や交代が毎月生じているが、開室曜日・時間の変更はない。 しかし昨年度よりも他所での業務が増えたことにより、相談員が拘束される時間は増えている。相談員の疲弊と、担当者が相談室内のことに要する時間が取れないことで、相談件数の減少となって表れている。新聞の無料広告掲載への不採用頻度をはじめ、市町村広報誌への掲載依頼を行う時間確保が困難など、露出回数の低下が理由として挙げられる。件数の減少割合が大きいのは相談室での対応と電話対応で約3割減となっており、相談室機能の立て直しを早急に図る必要がある。相談員からも相談室での対応を主としたい、相談室の広報を充実させてほしい旨の要望が出ている。 相談内容や対応内容の内訳は昨年と同様で変化は見られないが、割合としては新規の相談者が増えている。緩和ケア認定看護師や病棟からの紹介だけではなく、今年度はがん相談支援センターからの紹介も増え、院内での連携が取れてきた効果である。 リピーターに関しては自身の不安感が高まった時に利用する方と、検診時に近況報告を兼ねて利用する方に大別されるが、どちらも自身の話しや相談員の体験を聞くことで不安解消やストレス発散の効果を得ていると思われる。 3. がん患者等関係者及びがん対策関係者との連携推進業務 (1) がん患者等関係者及びがん政策関係者との協働によるがん相談支援に

関する普 及啓発活動

① がんピアサロン

今年度はサロンの前半部に体験や教室を行い、参加者の増加を図った。サロンのみでは相談に来る人が少ないことから、サロンタイムの前に体験や教室を行うことで、参加しやすくし、また話しやすい雰囲気づくりがねらいである。アンケートから体験や教室は好評であり、次回の開催も期待されている。講師もピアにすることで、参加者により親近感を持ってもらうことができたといえる。特にヨガ体験の講師は養成講座修了生で、サロンの参加者から「お話したい」と連絡があり、相談室にて対応してもらうなどサロン以外での対応に繋がった。他にも参加者からは「体を動かすのが好きだけど、病気になってからはなかなか機会がもてない」との声があり、不安軽減だけでなく運動不足解消の効果も得られている。

今回のサロンへは旅費助成により石垣市から2名のピアサポーターが参加している。養成講座以降、実践は初めてとのことで復習しながら対応しており、不安な部分も多かったようである。本島のサポーターと交流する機会でもあり、反省会では意見収取の場でもあった。「地元を持ち帰って今回の体験を会の皆に伝える」と活動意欲の向上という効果を上げている。

また、ウォーキング教室の講師からは、養成講座に参加したいとの申し入れもあり、参加者だけではなくセンターとの繋がりにもなっている。

② がんピアサポート展 ～ 泣いていい場所、提供します。～

沖縄県地域統括相談支援センターの広報の一環としてパネル展を行った。センターの概要や利用方法、活動報告、相談事例の展示を基本とし、開催場所によって形態を変えて展示を行っている。

今年度は沖縄銀行の待合ロビーで展示させてもらうことで、行員から「このような活動があることを知らなかった」と働く世代への周知となった。また企業との連携ができたことで、今後のモデルケースとなったり、支店を変えての開催に期待が持てる。銀行側からは「待っている間に見るものがあると、お客様に待ち時間を感じさせず助かっている」との声をいただいている。

がんピアキャラバン開催時には、講演会場と同じ場所にパネルを設置することで来場者に見てもらえている。講演会が外見ケアに関する内容であったため、持ち帰れる資料にも同種を多く配置し、より広範囲な情報提供ができています。

(2) がん患者等関係者及びがん対策関係者との意見交換会の開催

① 患者会視察及び意見交換会

患者会への視察を行ったことで会の活動実態や連携体制の構築ができた。オストメイトの悩みや同じ境遇だからこそ話せること、センターの相談室とは話しの内容が全く違い、常に参加者はいるとのことから部位別の患者会の強みであることが伺えた。

また世話人が株式会社琉球光和ということで、連絡が取りやすいことも挙げられる。企業としての取り組みや災害時の対応など、学ぶことの多い会となった。また中頭病院でサロンを行っているため、毎回中頭病院の認定看護師が参加していることも参加者の安心感に繋がっていると考ええる。

大腸がんは県内で最も多いが相談室への相談はあまりない。しかしピアサロンや拠点病院でのゆんたく会では対応することもあるため、相談員の知識として持つべき事項であり、ピアサポーターにも情報提供するなど有効活用できる。

② 養成講座終了生の意見交換会

沖縄県地域統括相談支援センター相談員ミーティング

相談員は曜日ごとに担当しておりお互いが顔を合わせる機会はほとんどないため、定期的にミーティングを持つことで継続相談者の情報シェアをするなど相談対応につなげている。

また相談員は日々の相談対応だけではなく養成講座やがんピアサロン等でも講師やアドバイザーとして活動しているため、年間事業計画の伝達、意見聴取などを行っている。意見を出し合うことでイベント等の精度を上げるだけでなく、育成者としての責任感、活動意欲、事業の理解につながっている。

がんピアサポーター交流会

昨年度に引き続き、ピアサポーター同士がお互いを知り仲間意識を高め、活動意欲の継続やアドバイザーである地域統括相談支援センターの相談員と気軽に話せる環境づくり、ピアサロン等に関する意見聴取が目的である。

今年度は参加者も少なく前回と全く違う顔ぶれでもあったが、一緒に活動をしたことがないサポーター同士だったため新たな出会いの場となった。1年間にサポーターが参

加した活動報告を行ったことで、相談員にも事業を振り返るきっかけとなった。

サポーターからの提案で「今までに一番心に残ったピアサポート」という題で全員が発表したことは、他の人のサポート内容を聞く機会、自分の体験を語る機会、個人情報に配慮した発言の機会となり、サポーターの質を上げる効果があった。

③ 沖縄県地域統括相談支援センター事業評価会議

沖縄県地域統括相談支援センター事業を行うにあたり、事前の評価や事後の評価をいただくことで内容の充実を図っている。また県外で活躍する有識者によって実施されることで、県外でのピアサポートの動き等の情報収集も行えている。

今年度の事業について一定の評価を得た。また各拠点病院の院内患者サロンへのピアサポーター派遣についても新たに評価を受けている。相談員がアドバイザーとなり一緒に活動し、振り返り作業まで行っているが、こちらも評価の対象となった。振り返り作業まで自分たちで行うことで、受け入れる病院の負担軽減になり、受入れしやすくなるのが理由である。ボランティアのピアサポーターに関しては質の違いもあることと、サポーター自身を守ることも含めて現行のままでの複数対応が望ましいとのアドバイスがあった。現状での継続が望まれているが、相談員の負担を考えると頻度を上げることは難しいと思われる。

(3) がん相談に関する自主的・自立的活動の推進

① がんピアキャラバン

昨年度までがん患者等支援事業で行っていたイベントを引継ぎ、相談会を主たる内容とした支援体制の普及啓発活動も兼ねた複合イベントである。事業計画の段階では石垣島を想定していたが、他団体との兼ね合いを取り宮古島市での開催となった。また今年度のピアサポーター養成講座によって宮古島市にピアサポーターが誕生したことも開催場所として選定した要因のひとつである。

複合イベントであるため講演会とパネル展も同時に行っている。講演会では離島でテーマとして挙げられることの少ないアピアランスケアを取り扱った。その後の相談につなげるねらいもあるため、講演で学び、座談会で体験談を聞き、再び講演で実際のケア方法を学ぶ構成とした。実際のケア方法は資生堂ライフクオリティービューティーセンターから講師を依頼し対応していただいている。座談会では養成講座修了生に登壇してもらうことで、ピアサポーターとしての活動も担っている。また患者会や県立宮古病院のがん相談支援センターに案内をしてもらうことで、来場者に支援体制の周知を図っている。

相談会は医師による相談とピアサポート相談の2種類を設定し、どちらもプライバシーに配慮できるよう個室対応としている。事前予約制を取っていたが、従来通り事前予約はなかった。

パネル展は設置スペースが限られていたため選定して展示している。また情報を得たい人は多いことから各種冊子やチラシの情報提供を行っている。資生堂の厚意により実演会（体感会）をパネル展付近で行っていただいたため、外見ケアに関する資料も配置した。

全体を通して来場者が少なく、地元のサポーターからは1月の後半から2月はサトウキビ刈りが始まるため、イベントは難しいとの意見があった。アンケートからは講演内容や座談会での体験談が役に立つとの意見が多く、「内容が良いだけに来場者が少ないのが残念」との声も聞かれた。

広報に関しては地元のサポーターが新聞の案内欄に掲載してもらえるよう手配していたり、NHKで夕方放送番組「おきなわHOTeye」で紹介されたりと充実していたが、来場者につながる効果は得られていない。開催時期の検討が必要である。

(4) 養成したがんピアサポーターによるピアサポート活動の推進

今年度より新たな取り組みとして県内の各拠点病院院内患者サロンへのピアサポーターの派遣を行っている。県内6ヶ所を想定しているが、受け入れ態勢が整っていない等の理由から4ヶ所への派遣となっている。

院内患者サロンは平日開催している病院が多く、活動曜日が限られているサポーターにとっては活動場の創出となっており、養成講座が終了してから初めての活動となるサポーターもいるためアドバイザーとして相談員の配置は欠かすことができない。

院内患者会にも常連の参加者が多く（琉大病院、県立中部病院、県立八重山病院）、その場合は相談することが特になくても多いためピアサポーターが戸惑うことになる。事前の打合せにおいて自分の体験を話し、情報提供することもピアサポートであると伝え混乱回避を図っている。常連以外の参加者がいる場合は傾聴を中心にサポートしている。今後の課題としてはファシリテーションができるようになることである。

また、院内患者会は10名前後の参加者が円となり全員で情報の共有を行う趣旨から、相談記入シートの枚数及び件数と参加人数に整合性が取れていない。全員で全員の対応

	をしているため、誰が誰のシートを作成するかという割り振りができないことと、発言しない参加者のシートは内容がないため作成できない場合や、参加者が多いと記入に時間がかかり、サポーターの負担となっているためである。すでにサポーターはシートの記入に負担を感じており、満点回答するなど意味を成していない。 その他の効果としては、院内患者会に参加することで「ピアサポーター」という言葉を初めて知った人がいたり、興味を持ってもらえたりと周知の効果がある。 4. その他 (1) 情報提供を行う 今年度から既存のホームページに相談員の対応時間を記載したカレンダーを月毎に掲載している。時間の他に対応相談員の罹患したがん種や性別も記載することで、カレンダーを見た連絡してくる人が増えている。同じカレンダーを相談室の入口に掲載することで、通りがかりに「同じがん種だったから」と来室する人がいるなど、少数ではあるが効果を上げている。 がん情報の提供に関しては、NCCNガイドラインサイト及びPDQのがん情報要約は今年度要望が1件となっている。対して国立がん研究センター発行の各種がん冊子は予め棚に保管しており、相談対応する際に印刷する手間がなくすぐに手に取って渡せるため活用頻度が多い結果となっている。またピアサロン等でも対応時に活用するなど情報提供として大きなツールである。 (2) 地域統括相談支援センター相談員のスキルアップのため学会や他県開催の研修会に参加する 研修会への参加は相談員の質の向上や知識を得る機会を設け、相談者やピアサロン等に参加するピアサポーターへ還元することが狙いである。県内で開催されている研修会や勉強会はすでに受講済み等の理由により、県外で開催される学会及び研修会へ参加している。 文部科学省が次年度からがん教育を学習指導要領に明記する旨が告示されたことにより、がん体験者が外部講師として関わることを想定し、がん教育の研修等へも参加することとなった。 学会では全国各地の患者会活動を共有することができ、改善への取り組みが参考になった。特に医療の質的改善に向けての活動は、がん患者の声を届けることの必要性を実感した。相談者自身が問題解決にたどり着けるような支援を行うためには、科学的知識にもとづいた正確な情報を届けなければならない。そのためにはピアサポーターも学び続ける必要がある。またがん対策を学んだことで、相談者の問題解決に向けて各相談機関との調整力のある人材が求められているとの現状把握にもなった。 研修ではがん教育に関して学び、その重要性を理解している。子どもたちが主役であることを念頭に言葉や家庭環境への配慮、事前準備からその後のフォローまでと求められることが高度である。外部講師または語り手としてがん教育へ関わるためには、ピアサポーターへの研修等を行い育成する必要性を感じる結果となった。
--	--

- ※ 1. 本表は事業ごとに作成すること。
2. 事業区分欄については、次の事業に該当する番号を記入すること。
- ①がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修事業
 - ②医療提供体制等の強化に資する事業
 - ③がん検診実施体制の強化に資する事業
 - ④効果的ながん情報の提供に資する事業
 - ⑤がんに関する総合的な相談体制の整備に資する事業
 - ⑥がん登録の推進に資する事業
 - ⑦がん検診の受診促進や受診率向上等に資する事業
 - ⑧糖尿病の重症化・合併症の発症予防のための地域における診療連携体制の推進に資する事業
3. 事業内容及び事業実施における効果については具体的に記載すること。